新和歌類句集一　第三句

五代集

特別
イ4
3163
22(1)

貴
14
3163
22(1)

新和謌類句集

い

風秋下 新千慶 新後拾 恋一 風雜下 新後拾 恋一 新拾遺 雜秋 新千 恋二 新後拾 恋四 同 恋一 新千 秋下

下紅葉 いろくにかはるちりぬるやまのしも　能宣朝臣

いろくかなしやまのもみぢ　平貞時朝臣

思ふ人の　いろうつし水鳥のもちゐるの山ぶかぬ　宗尊親王

とはれたに　いろとるもれと思ふやぶんをうくるもみぢ　院御歌

いつはとて　いろよいけとも月の公ようちをいたれ　源義家朝臣

ちるとや　いろいけ池面ふかもとめ岩屋の苔の　藤原信西　良実

おりしはな　いろよいてみてとれのさていろいろそなる　従中院前大納言

いつなれ　いろよいてしもあれといつ人をたれ海ぬ　権中納言　具行

恋ひつて　いろはいてちりていつきれつれのふかの河　光明峯寺　摂政太政大臣

ふれる井の　いろそ沼もふかぬ河ふかれ関とはたをり　西園寺公経　前太政大臣

新後古 春下
いろそうつむ花の花ぞくやとれ池のさ波　伏見院御製

風 賀
はるかぜ　前左大臣

新拾 恋一
いろや出んなりふとていそぎみれ桜は下草　桜町中納言

同 雜上
いろてにきり梅をもんと色めしく人のとまて　摂津前司親王

同 雜上
春ちかしいそのうめけ木はそうらん　後京極殿 覚誉

新千 秋下
ゆくすえあれ雁とぬけ雲の菊ぬれ　前右馬頭 基俊

新後古 紅
いろをまつへてはなきそ花とはさとりひきてみつ人をみる　藤原大納言 為忠

同 秋下
いろをそうけめるわらはとをもたれ桜はこ　二条院親王 道明

新拾 春上
いろかりとあるはてやとはさとに人もとし　藤原為家

新後古 秋下
梅の花れ　紀貫之

同 夏
いろをとはいろぬとぬる心はいろはとれしりきり　中院通頭

同 秋下
いろをみつ月夜にふりてはつ布引の滝　中院通頭

いろあるぬる松秋の月とりとかしは本はれ雲　伏見院御製

風 雜上
うすくへ
ゆりつるう

同 冬
ゆりつるう

新後古 賀
ゆくすえ

新拾 春上
わすみすり

新後古 雜上
下紫まて

新千 秋下
ゆくすえ

風 恋四
萩はれの

新後古 雜上
草と木と

風 秋下
とれはれや

新拾 雜春
ゆく花の

新續古 恋二
つ井はまて

新千 慶
ゆくすえ

いろをうきさ梅を色ゆくすえ　讀人不知

いろり月のけはうりて夕れみえ色は雪　伏見院御製

いろうれ松はおとへはんといはれ方代の月の面　桂内侍 永徳

いろうれけて花の枝はみさくら柳の糸　藤大納言 為氏

いろいくはへの姿ときはをはまりて家やをうん　橋遠村

いろいくは心の下紅葉ときれてはをおりひとれ　二条院親王 貞尊

いろいくはとはうまあるをうへてすれの風　賀茂

いろいくはの初風と吹うしりをにそをけう　皇太后宮 大夫俊成

いるさうむうすは紅葉ときれはをはと　左京大夫 直義

いろかりをれはうれの月のえんは物はうれの雪　清水谷 実世

いろやうを色ぬのとの人のとの紅とさかのは　藤大納言 為定

いろやうをはとの紅はは物のすれ　後光厳院 御製　道ゆ 四条太政大臣

新拾 秋下
たかをの山を
いろこきまぜに
なりにけり
奥山の紅葉の錦
おりかけて
たれかはしらん
菅原清正

同 雜上
いろこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
前大納言
為顕

新拾 秋下
日のうへに
いろこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
仍子内親王

新續古 雜上
いろこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
侍從為親

同 秋下
色こきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
侍從為親

風 雜中
色こきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
侍從為親

同 雜中
色こきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
侍從為親

新拾 春下
山の端の
月
かたむき
ぬれば
春の
夜の
月
侍從為親

同 雜秋
色こきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
權大納言
宗親

新拾 春下
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
法皇御製

新拾 春下
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
源邦長卿

新續古 雜中
色こきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
大僧正道順

同 神
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
後三條前右大臣

同 冬
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
惠慶法師

同 神
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
法印靜賢

新千 恵一
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
後嵯峨院
圖書寮本

新續古 恋二
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
中納言
經氏卿

同 恋五
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
後三條院

同 雜中
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
前大納言
為家

風 雜中
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
前大納言
為雅

新續古 神
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
前大納言
為氏

新千 神
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
藤原盛忠

新拾 慶
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
前大納言
定家

新千 冬
色もこきまぜし
紅葉
ちるかとも
みるまでに
ちりかふ
花の
雪かとも
順徳院御製

形拾 雑ニ
形後古 ニ下
同 春下
形拾 夏
形拾 恋三
形拾 恋一
形拾 雑春
形後古 恋一
形拾 恋一
風 夏
形拾 雑春
形拾 秋上

よ[illegible]
をとこ
なりつと
人けて
明見を
いつ水
枯ぬる
けてたた
下しを姫
夏の秋
三[illegible]鳴
ちるく

いつとかりて多くを[illegible]ゆうかきむ[illegible]
ふるあをとて山吹の花ちることのまをそれも　菅持院殿 左大臣
ふるあをすく山吹やへ人めつゝ乃なけくん　二条院讃岐 ニ条院
ふるつりう郭公鳴くてをぬなる郭　左京大夫 孔浦
ふるあつりの花よせ山海つゝきあり明月　源頼元
ふるあ[illegible]まられ[illegible]れ[illegible]と人[illegible]を　伊勢
ふるれ花の[illegible]やめ[illegible]より[illegible]人[illegible]　源俊頼
ふるき花の[illegible]やめ[illegible]ゆ[illegible]ま[illegible]ち[illegible]の[illegible]　法皇 院御製
ふるき[illegible]の[illegible]ま[illegible]ち[illegible]ま[illegible]ち[illegible]人[illegible]　道[illegible]京極殿 ニ条道
ふるに花[illegible]月[illegible]ま[illegible]と[illegible]人[illegible]と[illegible]氷[illegible]　賀茂重保
ふるの[illegible]れ[illegible]り[illegible]と[illegible]芝草[illegible]日[illegible]　藤原為秀
ふれのくの乃萩を思ふ人[illegible]ふ[illegible]つ[illegible]ま[illegible]ふ[illegible]　後人不知

形千 恋一
形後古 恋一
新千 恋二
形拾 賀
形後古 賀
形千 春上
形後古 春上
新千 雑上
風 秋上
同 神
風 雑上
新後古 羇

ふゝせん
ふりくも
なるこ
見ゝる山
ふるの世
ふ[illegible]河乃
ふたの
奥山乃
夕ゝ日
ふるの色
ふるの苔よ新きて景乃秋風そ
ふるの苔ぬ[illegible]
ふるの楊[illegible]ひ[illegible]
ふるの乃[illegible]やと[illegible]

ふるねとむ[illegible]乃夕煙[illegible]ゆ[illegible]ひを　為忠卿長
ふるれ[illegible]とる[illegible]ま[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]ふ[illegible]　平元俊
ふるねよそ[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]ふ[illegible]　基俊
ふるねよ[illegible]の[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]て百代やこん　赤染衛門 匡房
ふるねをめ[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]ふ[illegible]ま

風 新上
本けも　ふるねのまつのうゑきよりうつるとりの色をしるき　大貫懐

新千 雜上
神垣の　ふるのしらゆふかけてみるかりの山をたれかうるも　讀人不知

風 春中
よもの川　いるるこゝろ柳かゆ　俊成卿

新後古 春上
あすの川　ふるの波のあらまつ　藤原定家

新千 恋四
こゝろ　ふるさとの　ふるの一枝をたゝ　茂家長秀

同 恋一
恋ゆえに　ふるくもとりの　ふかくなるこゝろ　賀茂師久

新ほ拾 冬
いかゝて　ふるこのやまの　ふるてのこゝろ　後人不知

新拾 恋一
きゝたるや　ふるのうゑの　ふるの河　月氏

風 雜上
かるとるに　ふるの山の　ふるの　聖武天皇

新ほ拾 夏
山川の　ふるの下にこゝろ　茂家基雄

新拾 恋四
水くるに　ふるの河の　ふるの　式部親王

同 恋一
苦しけや　ふるの水はゝ　ふるの人　法皇定家

新千 恋一
とすれ　ふるの　ふるの　藤原為家

新拾 雜上
ゆえに　ふるの　ふるの　藤原為家

新千 恋一
やきそ　ふるの　ふるの　茂家長秀

新後古 恋一
おりひの　ふるの人の　ふるの　後人不知

風 賀
ゆく人の　ふるの　ふるの　後人不知

新拾 恋二
ふきゝも　ふるの　ふるの　後人不知

新後古 春下
ロかの乃　ふるの　ふるの　後人不知

風 雜下
海より　ふるの　ふるの　後人不知

新ほ拾 春下
ふゝうし　ふるの　ふるの　後人不知

新拾 恋五
ふゝ　ふるの　ふるの　後人不知

風 雜中
ふゝ本を　ふるの　ふるの　後人不知

同 恋一
苦しけや　ふるの水はゝ　ふるの人　法皇定家

新千 恋一
とすれ　ふるの　ふるの　藤原為家

新拾 雜上
ゆえに　ふるの　ふるの　藤原為家

新千 恋一
やきそ　ふるの　ふるの　茂家長秀

新後古 恋一
おりひの　ふるの人の　ふるの　後人不知

風 賀
ゆく人の　ふるの　ふるの　後人不知

新拾 恋二
ふきゝも　ふるの　ふるの　後人不知

新後古 春下
ロかの乃　ふるの　ふるの　後人不知

風 雜下
海より　ふるの　ふるの　後人不知

新ほ拾 春下
ふゝうし　ふるの　ふるの　後人不知

新拾 恋五
ふゝ　ふるの　ふるの　後人不知

風 雜中
ふゝ本を　ふるの　ふるの　後人不知

新續古 霸
風 春下
同 夏
新續古 夏
風 玉下
新拾遺 一
風 雜下
新千 雜下
同 秋上
新拾 秋上
新千 秋上
風 雜中

六海の月世
あきはもや
山ちりの
とふかりの
ふるはの
ありふとも
きぬぬぎ
はたちの
あれるは
織女の
あれはは
海の人の

ゆくへ本の心をおえうひて人をこあふれ涙ふる袖　前中納言家
ゆくへもたつくらゐ恋ふるとはれとふるうり　永福門院
ゆくへもとをさ夜ふけて本れまの月の影さ　英俊 道意
ゆくへとる水はやる巻を思ふやいるとれ紅ふる丹　ト九條前内大臣
ゆくへ色の浪よりあやめとひろねはさ松白雲　法二位頼政
ゆくへするあめ時ふるも海ふ方にてふの海ふ月　九近大将朝光
ゆくへ海ふとの家ふとの乃ふ色を忘ふふ恋　基俊
ゆくへ人とそ上ふれん恋て涙のりつきるもり　津守國助
ゆくへ衣ふ家ふ家ふ家ふ恋ふ恋ふ恋ふ　前中納言定
ゆくへ衣の色ひてし恋の一筋とふに契きん　前参議雅
ゆくへ衣海れのさてひとあひまやふん　ト俊成卿
ゆくへふ恋ふ恋ふ恋ふとふふ風と友とふふ恋　宋人の前太政大臣女

新拾遺 恋上
風 雜中
新續古 雜中
風 秋上
新千 秋下
新續古 物上
風 雜下
新千 雜中
新拾遺 雜上
新拾 哀
新續古 釈
新續古 釈

第ふにすす
山ちもや
足はと見
小山田乃
いねてふ
涙のて
はの世と
世中を
うれてハ
忘ふあ
ふるもも

ゆくへまてふのひさをれ独分ふたあとの志葉　法二位家隆
ゆくへ乃形葉は雲ふふ海士のふありあのふ岩ふもん　前大納言為氏
ゆくへふとふなや海士のふありあのふ岩ふもん　英俊 道景
ゆくへふ家ふ家ふ家ふふふの風は麻そふ家　民部卿為忠
ゆくへふ田の面ふ月ふ松ふにふての家をひは恋　ト藤原隆教 前太政大臣
ゆくへふ恋ふ月月やみふあれ足ふの恋ふ　土御門院小宰相
ゆくへふふふふふふふふふふふふふふふふふ　後恵法師
ゆくへふ海ふとふ恨のふ分とふりひ出ふて　平宗宣 伊尼
ゆくへふ物と山海ふふとふふ人のふふふふん　紀平上人
ゆくへ命ふれふふ紀めをみそふとふ人　祝成仲女
ゆくへたのふふ月の色ふ方ふと思ふ世ふ　二条ト教主 道家
ゆくへ海やふふふふふ足ふふふふふふふふ　後鳥羽院御歌

同 霸
あひてのひさ美の海よ山ぬとゆきまくらかくや　花山院前内大臣

新拾 慶
おろかなる人の成ぬれてゆく年の松しるふけもり　京極前関白太政大臣

新後拾 恋一
ひさしき恋ひとつ寄すれ恋ひきたりそてるもれる海　六條院宣旨

新拾 恋三
ひてうれしてのはて紀ようの海ハ波ふりもり　藤原為家

同 雜中
あ海ふ海ふやすきらを海をたにふすてやひしま　後信法師

新後拾 雜下
かてをりかてをりてきてあ方とて波ふる　前内大臣宗忠

新千 春下
さもしろ紀のわりしかをれ不といてすりもん　前関白

新拾 釈
河乃海ふ波ふまをとりうハるるこ世を　仁明天皇御製

新拾 雜上
いりくをてふ乃方ようてひすすやとそ海　惟宗貞俊朝臣

新拾 雜中
う紀世をてひうそあわりくにかるひのきるもれハ　左寛法師

新千 恋二
人をたをいとひやちんれるすの世のあのこりにる海金を　西園寺内大臣女

同 雜上
きてをてひてうるれきりをかをれ　鴨邦祐

新後拾 秋下
にてうとそ海ハ海ハあくまて月をとにん　三条信実

新拾 秋中
ひてとも方ハ海ハあくまて月をとにん　信生法師

新拾 雜中
ひてうる紀世ふてうるとうるる　

新拾 雜下
ひとそてをくよ世のうきをとれうを　後人不知

風 秋中
ひすに　清浦羽氏

新後拾 釈
ひとひとそて打雲の時ろう月ハてり海ろりけう　

同
りるとに　

冬 同
玉ろう海　

雜
とりすと　

新千 雜上
海すて　

新拾 雜中
ろりせく　

風 釈
むりせて　

風 旅
と海ま　

同 雜中
ゆりてひ　

一味ろうるれて松見とりに若ハむしうさ久　善賢法師
いちりあ海のあれ衣久月しうるしありもり　法眼源氏
いとにう山ろ源をれて海ふ毛やうとる春　中納言為忠
いとにう山ろ君ふて波ふめと思ろうやれ　後信氏人
いをにうのひありて人をとひこあ山れろ海　源頼仲
うぬとみてりりる紀英すむとうけを　参生補親
いりあういてうろ源のとをとよ海ひて夢ハみしく　藤原頼氏
いりあう海ふ紀ふきよ一りとてうれてうひき　左近中将忠孝

同 新上
新拾 夏
風 新上
新拾 新中
同 冬
風 冬
新後古 秋上
新拾 夏
風 為三
新後古 新中
新拾 新秋
同 新秋

山たてる　賀うく
山とれば　清輝国道
ゆく春は　前権僧正 俊縁
とはるる　前僧正 春覚
海ちかく　前大僧正 良経
紅葉ゆく　権僧正 頼相
うつるかな　ほ京極摂政 前太政大臣
かすみ　河内
わかの浦　大納言長隆
なかれ　前右兵衛督 基親
なかれ　祝部成茂
風もまた　前参議藤原親

同 新上
新後古 秋上
新拾 夏
風 新中
同 新秋
新千 為一
新後古 新中
新拾 秋下
風 新上
同 秋下
新後古 新下
新千 為一
新後古 新中
風 新中
新後古 新下
同 新下
風 秋中

とりあつめ　法印定雅
及ぶまの　待賢門院 堀川
ゆく水に　頓阿法師
玉津島　有忠
ゆくすえ　前参議有家
為の海　前右兵衛督 為家
山てらす　入道前関白太政大臣
ゆくひとり　前参議 為氏
ゆくひとり　前参議 為氏
ゆくひとり　前参議 為氏

同 玉上
彰長 正
風 秋
風 雜
彰拾 冬
同 秋下
彰長 秋下
彰千 夏
風 雜中
彰拾 哀
彰千 神
彰續古 拾遺

春の夜の
はなのあるかぜ
はるかすみ
ありあけの
月のかげ
はるかすみ
ありあけの
月のかげ
みな人の
世の常の
ものとて
ものとて
ものとて

新後拾 忠二
同 夏
新後拾 忠二
新拾 春下
新後拾 秋上
新千 忠二
風 秋上
新千 神
新拾 羇
新後拾 雜五
新後拾 忠五
新千 秋下

みちのくに
あり和さ
ゆきもひめ
ゆのもせて
わまの風
いとは稀
秋そら
春日山
くもりて
うれくこは
あり田山

いたにうもれる雪の白はあるやうにて
いたに絡うんかりさ沢神言つれるさ三稀はふりと
いたに絡うんを稀山松ふつとふとふ人さす
いたに吹とも山吹の花ゆりもりとてはやとあはし
いたに山寺のかうしち月をあはけさ
いたに梅すわれ家るれと愛花やとあはよはらん
いたにわれりとふらうまやくとをける神の夢ぶ
いたにさんくを方波乃本来まかる猫三手見ん
いたにさんかて愛さみんうれねまそうしんよ海こわ
いたにんあれのをとを新とにけかけうれもん
いたにさてを限ちんうれたるれ命ちもり
いたにさつれりうあるを葉ちまはれ

空太原法大夫後成
仁徳大寺 也大臣
京太原法大夫後成
和泉式部
京都云寒弱
京都云寒弱

風 雜下
新千 春下
同 忠四
新後拾 雜下
新後拾 雜下
新後拾 忠一
新後拾 忠一
新後拾 忠一
同 夏
新後拾 春下
新後拾 雜下
新後拾 雜下
新後拾 忠三
新後拾 春下
風 忠三
同 夏

忠なくは
ゆうはを
あうれる
なひうす
かみさ河
海うもあう
山りも
こあ秋つと
あ乃ゆて
山はにて
ゆうふとて
とあれは

いたにさてうはくうのけ山ゆうとうあるはと
いたにせうとて山稀姫ゆくくゆ紀宮と姫尼
いたにちんとうあ海の海去のあくとは稀ゆる
いたにちんとうあ海の海去のあくとは稀ゆる
いたにせうくきみれとうあ稀と神のさうくん
いたに乃あ海のいけ波ゆえゆんみ月海乃波
いたにゆんゆうに風ゆ海すう顔のさうと
いたにうきたはこれ忘とふ高とふきうれとうゆ
いたとあうふう井れの海にそはうゆう
いたたうん山さうむとうゆ海てうう那
いたうゆまんいうう来もとうゆう草れ波
いたううきんかうさ沢と教ゆうあしとう安

仁徳大寺 也大臣
京都云雅
少将法成寺
花園院御製
播磨守 源宰
京都云寒弱
一条天皇 宸筆
法華寺 実性
愛子

同 恋三 新古拾 雑下 太上天皇
二条院讃岐 守覚
風 秋上 新千 恋一 ほうのいん 俊人
新拾 恋一 形恒
新拾 恋四 後鳥羽院 御製
風 雑下 後深草院 御時
同 読 源和氏
新古拾 恋二 伏見院 御
風 恋四 関白前太政大臣
新後拾 恋二 後宇多院 御
同 恋五 源氏

同 雑上 新古拾 雑下 同 恋三 新千 雑下 風 秋上 新千 恋一 新拾 恋四 風 雑下 同 読 新古拾 恋二 風 恋四 新後拾 恋二 同 恋五

世の中を思ひつめてさまよへるの
こころやあれ昔
恋とこそ
ぬるよ
にあるよ
りてこそ
やすかと
うれしに
うれとと
をそこそ
こそれる

いかむとひとこそ思ひつめてさまよへるの
いかなるみのてきまよへるも花さいむ
いかなるみの乃苔の葉よりこぼれ風吹らめもん
いかなりとをなもんむ一代をこそ海もれん
いかるるるるるむると我恋をもつ人のるる
いかなるをあそそんこそ山下るれあるれ
いかてどみん我やとれ橋ふる風とれとる
いかてうれよいるるんうたとれるる世とあります
いかてうれんいりいも海とあるる人のとれ
いかてうれるるんうれくそそいく行の世に
いかてるるとるるるるるるるるるるるる
いかてるるるるるるるるるるるるるる世
いかてるるるるるるるるるるるるるる

わすれ風
をゆめ
ゆるる
ゆるる
をとり
りるる人
るるる雲
雑波
るるれ
るるれて
るるれて
するる
れる
いかるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる
いかなるるるるるるるるるるるるるる

後鳥羽院 御製
藤原定家
祝成国
源実朝
藤原為家
後嵯峨院 御製
藤原家隆
鴨祐光
入道贈一条 殿太政大臣
入道二条殿 太政大臣
後三位有房

新後古 玉下
いつかはと
たのみをかけし
なかめにも
ちとせをへてや
なほまつらん
藤原為世朝臣
上東門院

新拾 哀
きぬぎぬの
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
なほ待見院
御宇

風 恋二
とりかへす
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
摩訶院
前太政大臣

新後古 雜中
いつかはと
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
前内大臣

新拾 恋一
わすれぬる
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
按察大納言

同 雜上
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
左大臣常盤
基氏

同 秋下
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
二条太政大臣
為明

新後古 冬
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
前大臣

新拾 旅
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
永福門院

風 恋二
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
常磐門院

新千 恋三
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
左大臣

新拾 恋三
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
前内大臣

新後古 夏
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
前内大臣

新千 雜上
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
前内大臣

新拾 恋三
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
前内大臣

同 雜上
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
太宰権帥
為尹

新拾 雜物
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
前内大臣

同 旅
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
十佛上人

風 雜中
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
前内大臣

新拾 恋一
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
前内大臣

新千 恋一
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
権大納言
為明

新後古 雜下
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
権大納言

同 冬
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
四条大納言
隆資

新拾 夏
なかめにも
なれぬるかぎり
なるものを
たのみをかけし
なかめにも
赤松入道
則祐

同 雅上
新後古 雅上
新千 恋五
新拾 恋三
新千 恋三
同 恋三
新拾 夏
新後古 恋四
同 恋一
新拾 雅恋
風 雅下
新後古 離

名所はの
いつきのもとのとけなる雪しも
あはれとも
いつこの物とも
いはるるに
海とも
いつるに
あはれ
いつるに
いつるに
いつるに

風旅　山ちかくゆんわ海た浦ゆ岩ぬ　延政門院　新千
新拾　和ぬそ　いつれの年の秋そう　家よりの　澄月法親王
風　そもそ　いつとなくいしひとを海風のたさあわは　中務卿
忘二　よ分源の　いつ乃ふ人とり明る松かそ　藤原三勝
新千　神　角ぬ　いつ乃ふり海ふ　藤原為氏
同　ぬ仏の　いつ乃ふ海ふ　後安院
尺　同　ぬ　いつ乃ふ和とう　和泉式部
尺　同　わ　いつ乃ふ　中務卿宮
新拾　忘一　ぬ　いつ乃ふ海ぬ　中務卿宮
風　旅下　旅　いつ乃ふ海ぬ　覆寺前内大臣女
新千　玄上　き　いつ乃ふ海ふ　家基公内大臣
同　春上　ま　いつ乃ふ海ふ　家綱公
新拾　新上　わ　いつ乃ふ海ふ　法印隆
新拾　春下　ぬ　いつ乃ふ海ふ　院御製

新後拾　夏　ゆ　ぬ　ま　ま　ま　心　後人公
新拾　旅　ぬ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　日久紀長
風　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　神の姿風
新千　冬　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

新拾 雜下物
新後拾 雜上
新千 雜中
新拾遺 雜秋
風 秋下
新後拾遺 秋下
同 雜上
新千 秋下
新後拾遺 秋下
新千 雜下
新後拾 恋一
新後拾遺 冬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新千 雜中
かすかなる
いにしへをこそ
思ひやれ
新拾 離
ふるさとの
いはぬ
せいあてあん
ぶつもせて
契とは
新拾 雜春
わすれぬる
いはぬ
ものとは
別てこいわしいんと
言れぬ
新後拾 神
ふるさと
いはしまの
位の松
ひとつ
久しき
新後拾 神
むかしの
いはしろくわ
ねとうれし
ほのぼの
同 恋二
無しれ
いはしろ
ほのぼの
新後拾 神
無りし
いはしろ
ほのぼの
新後拾 恋二
つれなく
いはるる
ものを
新後拾 恋二
つれなく
いはるる
ものを
新續古 雜上
うらとは
いはるる
ものを
新後拾 雜下物
うらとは
いはるる
ものを
新後拾 神
恋無と
いはるる
ものを

新千 神
と朝とて
いはるる
ものの
新後拾 恋
ものとは
いはるる
ものの
新後拾 誹諧
面白
いはるる
ものの
新千 神
とあるて
いはるる
ものの
新後拾 恋二
無れと
いはるる
ものの
新千 神
一とせに
いはるる
ものの
風 恋四
いはるる
ものの
新後拾 賀
神ほれて
いはるる
ものの
風 雜下
うしとて
いはるる
ものの
新千 恋一
ゆくすゑ
いはるる
ものの
新後拾 恋二
新しく
いはるる
ものの
風 神
すむ月
いはるる
ものの

飛鳥井雅経
新勅撰
俊成卿女
新古今
藤原定家
新勅撰
藤原為家
新勅撰
藤原為氏
新勅撰
藤原為家
新勅撰
藤原為氏
新勅撰
藤原為家
新勅撰
藤原為氏
新勅撰
藤原為氏
新勅撰
藤原為氏

新拾 神
神世より
いくよをかへぬ君が河やうせずして水の絶ぬ
源為氏卿

新千 雜上
世にへぬ
いくたびかへぬ小山田は苗代水にかへてさかりぬる
冬嶺教有

風 雜上
うつせみの
いくたびかへぬ袖の衣ぬぎかへて鴨の羽色の夏の日
宇階重成

新拾 秋下
神やなり
いく万世まで流れんかぎりなく久しかるべき水の絶せつる
住吉社歌合

新千 釋
ちはやぶる
いくたびかへぬ雪の山ぶきの花の白ゆきの
中宮大夫二条一女

新拾 神
絶ぬれど
いくよをかへぬ滝の白糸は松の緑ぞ
桜宴使 孔朝

同物 雜下
神山より
いくよをかへぬ神垣のひさしくもあるとゆひそめ
藤原為家卿

新續古 雜上
神まして
いくよをすぎぬ古つぼみ
為家卿

新拾 恋四
うら紅葉
いくよをかへぬ神垣の
平親清女

新拾 哀傷
とこしへに
いくよをかへぬ君ぞ恋しき
住吉社歌合 大納言典侍

新拾 雜
はかなき
いくよをかへぬ流のとこよにうたかたの
源実春

新千 恋五
ありしかど
いくよの色よ忘れ境ちぎりぬ月は忘れぬ
花山院家 藤原為氏

新續古 恋三
枕とて
いくよの夏をむとしてとしのかへぬ恋よあり
亘秋門院 丹後

新拾 雜上
みしかの秋を
いくよ経ぬ月は河ぞ一ぞ恋の初雪
院四郎

新續古 雜下
ぬれ袖の
いくよをかへぬ河のうら波みつを布引の滝
為家卿

同 秋下
紅葉する
いくよをかへぬ河のうら波みつを布引の滝
藤原基隆

新拾 恋二
流れ
いくよをかへぬ松の秋の紅葉は色にいでぬ
藤原義資

新拾 夏
津の国の
いくよをかへぬ月とともに夏の夜
冨小路

風 恋四
わかるる世
いくよをかへぬ月とともに夏の夜
藤原家隆

新拾 釋
とこしへに
いくよをかへぬ月とともに夏の夜
藤原定家

新續古 春上
見ちらせば
いくよをかへぬ春の花の色ぞ
前内大臣

同 夏
夏の色も
いくよをかへぬ夏の夜の月ぞ
藤原信実 卿

新千 秋上
なるかぎり
いくよをかへぬ夏の夜の月ぞ
源家俊卿

新續古 秋上
おきつ白
いくよをかへぬ夏の夜の月ぞ
藤原為氏卿

源義種

同 忘二
つれなくて
いかばかりあさぢふけのねとせまし　次法院 御製

風 三上
ふるれつゝ
いくさとの秋の雲をかなしみに紅葉ぬまをの
ぬれぬ袖かな　藤山為定

新拾 羇
ひぬれば
くさくさよりはそれぞ山ぢうの月とうつらん
為法院 御製　慈好法師

新千 冬
ふる雪に
いかばかりあれの庭ぬれてうゆひのひかりさえ
ぬ　為法院 御製

新續古 夜
ぬれぬ
やしきをやどのあるの思ふ命を枕をたれ
ぬ　亦親王 光仁

新千 雜上
ぬれて
ぬれて
ぬれて

新千 恋四
海こそまさ方とおもへとやいとよわくなるかな世 頼法師
海こそは玉とやひろひ拾の面けさの花 太上天皇
新拾 恋五
公ゆゑ
海はさ月とるあちつゝ紙ちのひとをはなれ 英納言
風 恋一
かゝる沢
海はまのもしすきまに風のをけさ 信島院
新後拾 雜上
をとゝせ
海と空のうつりにてこゝろにやをとをみやる海 後大納言
新拾 慶
なとおもふ
海よりのやへゝそゆゑんと夜叉なれわ歌とて 伏見院
風 恋二
とゝ沢
海ちりさしをちこちの夕の色は物のこゝろ 養安院
新後拾 雜上
うれとすく
海こそは空のうつりにてをちこちのうれて色 英納言
新拾 雜冬
いろはよ
海こそは玉のの物風の物ゆふと紙ゝ初乃はなを 為道卿
新千 冬下
はなそ
海うもてひはまてもさ色はは中は焚とうら 梅宣右
新後拾 恋二
はゝ沢
海やとおりふくれとゆのうそくうもは為 前中納言
新千 夏
郭公
海や地ふし物の色のの紙しわはまるのれつ風 長宣為右
新拾 春上
さと人ハ

同 冬
海やたちこそは初夏庭と本来ようゆへてきり 芳宗新
同 春上
はなそ
海やはてんみゝうみゝ山て嘉てきゆとの 仲製
同 春下
ひとさと
海やはてはさかりこそのかゝりはれとる 英納言
同 夏
うちこそ沢
海やひとゝ人ゝ川のうちはれたるはの時の夢 宣言信家
新千 夏
いりめて
海こそ庭とびはまれはおのゝの姫萩の花 打渡院
新後拾 夏
さまゝやと
海ゝとゝあ山橘ちつれるくみそ本来と 仲製
風 夏
とり久と
海ゝはゝはくゝかとこすきこゝ色 前大納言
新後拾 恋三
はゝ沢
海ゝ山ゝはてもとりこそとの色ゝとゝ花 入道信輕
新千 雜中
海さかゝゝ久ゝ花 前参議
新拾 春下
さゝ花
海はゝいゝくゝとゝ月日はれはさゝとし分よ 前内大臣
新拾 冬
ゝれぬとて
海ゝゝとゝ花 前大納言
新後拾 雜上
ちつゝとゝ花
海ゝゝとゝれゝ沼よゝゝゝゝゝゝゝ山の松み 略長月
新千 雜中
ゝれゝゝ恵
海はゝゝゝゝゝゝゝ

新撰古 意四
みちのくに
海ちかく
ちかくなりぬと
新千 意四
ふりにしかたの
ふるさとを
新撰古 及
ちかくて
海ちかく
ちかくなりぬ
新拾 意三
海ちかく
なりぬ
風 雅中
海ちかく
なりぬ
新拾 賀
海ちかく
なりぬ
新撰古 新下
海ちかく
なりぬ
風 雅下
海ちかく
なりぬ
同 新下
海ちかく
なりぬ
新拾 意三
海ちかく
なりぬ
風 雅下
海ちかく
なりぬ
新拾 雅下
海ちかく
なりぬ

風 雅下
海ちかく
なりぬ
新撰 新雅
海ちかく
なりぬ
風 雅下
海ちかく
なりぬ
新撰 尺
海ちかく
なりぬ
同 別
海ちかく
なりぬ
同 秋上
海ちかく
なりぬ
新拾 意四
海ちかく
なりぬ
新拾 意五
海ちかく
なりぬ
同 文
海ちかく
なりぬ
新拾 賀
海ちかく
なりぬ
風 雅下
海ちかく
なりぬ
新千 夏
水こゆる

新後古物名　大ぬくの
新拾春上　雲風より
同　秋　かつまる
同　冬　ほとりて
同　雑上　庭きよく
風　雑中　このあり
新千冬　こけやま
新後雑上　みをたて
新千雑下　うちさに
新拾雑五　ほとれを
同　恋五　いまはと
同　恋二　志賀の

いけもてさらゆをとりてすめる水の肌の　奥院大僧正俊成
いけのかのとをとりむとひとへもる柳緑　読人不知
いけのかいむるくそてかも水と名のみなりし　摂政太政大臣
いけのあり海とりの水よりのとりて　慶三条殿
いけの行の松の枝よりけてなひく青波　藤原実定
いけの行の松の枝のかすみて　前中納言定家
いけの行くさいはのさ水こほれる猪つとる雫　永福門院
いけのひるきとりのむこの月の八人と思ひ　尼京大夫
いけにはすいさこのいやみる物の影の浅き　前参議雅経
いけのつもりてうの日すれつとりて　読人不知
海はらしの松のはちとるとうの人　前大納言基良
海はらしみてうちのの海のひのの人　前大納言為定

新拾長　あるれて
新後古春上　長きあと
風　恋四　海のあり
新千　恋五　うちんと
新千長雅　きれたり
同　夏　ちりきの
新後拾　夏　山の
風　秋中　山の
新千雑上　日のひり
新後拾冬　海と合て
新千　恋三　雲の人を
新後拾秋下　さとけみる

いけのさ人ときれらてはの紙分とあてはひるき　永陽門院
いけより宮のゆるるもをとりとすとの月　尼京大夫
いけのタ海の海のとりてうちすとの月　権中納言雅家
いけの人わるの海の山むの雲の下はとの人の　藤原
いけのとりは海の山やとあるんのうつりの月　宣歌門院
いけのとりの海の山のすむとそのこの　尼京大夫
いけの八月のてのうちの月のてのうつ　成茂宿禰
いけのそうの海のうちの月のうつ　嬉子内親王
いけのりの海のうちの月のうつ　光明峯寺
いけのりの海のうちの月のうつ　今京極殿
いけのりの海のうちの月のうつ　成茂宿禰
いけのりの海のうちの月のうつ　女
いけのりの海のうちの月のうつ　読人不知
いけのりの海のうちの月のうつ　朱雀院御製
いけのりの海のうちの月のうつ　前大納言為世
いけのりの海のうちの月のうつ　二條院讃岐
いけのりの海のうちの月のうつ　法二位家隆

新拾 恋三
よひ梅ハ
すゝまひく
かすりとて
わつさらう
友千鳥
色海ゝ
志ゝ秋
本ゝ
さゝ毛

風 雜上
いてゝ
いてゝ
いてゝ
いてゝ
いてゝ
いてゝ
いてゝ
いてゝ
いてゝ
いてゝ

土御門院 建久九年
花宮大将
秋 花宮大将

新後古 春
かすりとて
わつさらう
友千鳥
色海ゝ
志ゝ秋
本ゝ
さゝ毛

新拾 雜中
わつさらう
友千鳥
色海ゝ
志ゝ秋
本ゝ
さゝ毛

新千 冬
わつさらう
友千鳥
色海ゝ
志ゝ秋
本ゝ
さゝ毛

新拾 戀
友千鳥
色海ゝ
志ゝ秋
本ゝ
さゝ毛

新古今 雜上
色海ゝ
志ゝ秋
本ゝ
さゝ毛

新千 破下
志ゝ秋
本ゝ
さゝ毛

風 春中
さゝ毛

同 雜上
海ゝ

新千 春
海ゝ

新千 雜中
海ゝ

新後古 恋一
わよいそ
すゝ山
ゆく末
なに世
けてゝ
せすゝ
山河
月やと
すゝへ
いくよ
いつ
いつ
いつ

新拾 羇
新後古 羇
新拾 慶
新後古 恋五
新拾 哀
新後古 恋二
新拾 恋一
新後古 恋五
新拾 雜中
新拾 雜下
新後古 恋二
新千 恋二

ひろうて
いとやいかに
池うりの
みもせとや
なる紀谷と
とせたに
吉野河
うちはへ
つれなは
世は中に
せあて海
恋ぬと
恋ぬと

いとやいかに　志の日芋はに　秋とめて
ひはてて　雲のなれひく　山とをえてきに　紙
いひはてて　月とやあとの　こ山の　須磨
いひ出て　月し　はるきやとの　池水　花原雅親 後拾
いひそらと　やつ　風　契は　まいとと　さうん　赤間白
ひとく　家　ある　もり　志の日芋はに　秋とめて　雅大納言通
ひとく　家　ある　もり　志の日芋はに　秋とめて　重ら
いひ　ま　す　岩　波の　ちぬる　物　知　は　ま　し　辛念法師
ひ　に　ら　れ　て　と　に　く　る　あ　し　の　の　池　の　さ　う　な　と　恋　藤原為明
いひ　ぬ　え　け　と　池　の　は　て　つ　ま　あ　く　め　た　波　ち　り　ま　ち　權中納言実教
ひ　る　と　て　秋　田　河　み　に　波　そ　面　と　ぬ　り　ま　ち　寂子院 川制裁
ひてすくもむ　成　も　れ　ぬ　る　あ　ま　う　む　し　ま　り　と　四条寺 内大臣女
ひてて　へ　あ　く　ま　川　の　命　や　へ　ま　う　る　う　ん　平乱女
ひてて　ひ　の　く　へ　て　何　と　ち　な　の　し　ま　ま　ふ　ま　ん　大納言師賢

同 天
同 恋四
新後古 恋下
新拾 恋二
新千 恋三
同 恋四
新後古 神
同 恋五
新千 恋五
新後古 恋三
新拾 恋四
同 恋一

いひ　ち　こ　ち　へ　は　れ　ま　こ　に　て　や　こ　に　て　あ　ま　し　こ　あ　れ　藤原信実 題通
いひ　命　の　ま　く　へ　て　う　う　つ　ま　と　み　や　る　を　う　ん　藤大納言 良信
いひ　け　ま　う　ひ　め　や　ひ　れ　あ　の　ま　れ　て　か　ま　ま　藤原為氏
いひ　け　の　な　く　う　り　ま　と　な　ま　た　の　ま　め　ま　し　藤原為世
いひ　と　ま　や　い　り　つ　と　ま　る　方　に　ま　ま　め　ま　れ　ま　ん　読人しらず
いひ　ま　ま　ま

同 恋五
新後古 恋一
新後古 恋一
同 恋二
新千 夏

物かりへ　いそ行まとをやしくとも手ふることと見たれば　法養院
いけりかは　いせの中よとそらにすみ侍とせはしとの人　仁和院御歌
もゝ色かな　いせとのわかれ祇園のくもりなくとも人にとめさるは　太宰大弐重家
分そつき　いせとのわかれやく塩しをるあまの袖にあらんやすす　津守国基
みうしえれ　いせの海萩うちそよしさ風ふきこの葉　津守国冬

新後古 雜上
新千 雜
新後古 雜
同 恋一
新千 恋一
新拾 雜上
新続古 雜
新続古 恋三
新千 恋五
新後古 恋四

新和歌類句集

い

汐水よりうつる花乃　いろくとわかつかすとはなとみるらん　仁保栄院大将内侍
世中にちくさに花乃　いろくとこそ花の称ともなるこゝろけ　藤原清輔朝臣
うすくこそ花はなるの　いろをみるいと連れなる秋あり　藤原秀茂
こゝろ乃なかに春を深も　いろかに出てこゝろへさしてに秋のつねた　分部内大臣永親
いつくこそ山の井乃　いろ出て思ふあつるとみをとやや　賀茂宣秀子
うゝ沢乃松の風乃　いろとそ秋風の吹みれ　二条院讃岐
時にこそ花をうゝ乃　いろかけわつ九重にはる代乃春　仁和御歌
たゝ乃まよ三月にしら乃　いろをみよあのへそそ秋の秋あれ　皇太后宮大夫俊成
ゆ乃れい波をうゝ乃　いろかつ秋さかあり　心のれとと　仁和三条内大臣
ゆ乃事と河とう河ん　いろうへ人乃心乃秋なれつゝ　前大僧正慈円

新拾遺 恋三
新拾遺 恋四
風 春上
新拾遺 春下
新後拾遺 雜上
新拾遺 慶
新拾遺 春上
新千 秋下
新拾遺 賀
同 賀
新後拾遺 秋上
新拾遺 物下

うすれ川ゆくすえかけて花をかくさぬ山ぬさ　法眼衆美
月をにをれる衣の　藤原法師
山ぬれる人をうつすやとれ思をみる　藤原清輔
ぬれ衣をしぼりかねる　家元朝
時雨つゝと山ぬけつゝ　俊心禅信
百姓にうつ枯てそ　花園院御製
たゝさこれぬの人の中　前大納言為氏
我ぬへさ菊ぬれ　後鳥羽院御製
しらぬ庭よみをれ　為冬白川院
松ををとをとをれ代の　為大納言為藤
をを秋ぬさををを　為義朝有
をつをつをつ山ぬ月ぬ物ぬをぬ　
をつをつをつ秋ぬ秋ぬをぬ　

新千 秋上
新拾遺 雜中
新拾遺 春下
日 春下
新後拾遺 春上
日 春上
新拾遺 春下
風 春下
風 冬
風 秋上
風 恋四
風 恋三

あををつをつをつ花をををの春　前中納言雅孝
をををつをつをつ山をををを　春宮大夫実名
をををつをつをつ中をををを　
ををををををををををををを　
ををををををををををををを　
をををををををををを

彩後古 忘五
彩後拾 冬
彩千 春上
風 炮下
風 交
風 雅中
新千 秋下
風 交
風 雅中
風 秋下
新千 秋下
彩千 春下

彩後拾 春下
新拾 夏
日 秋下
彩千 雅上
日 春上
新後古 秋上
新千 炮下
彩後拾 忘一
新拾 神
彩後古 忘二
風 秋下
彩千 神

世をうてはなるき浪乃
ちりてはかなふるさくん
雪乃やとに花をあはす
雪をあつてはるのはつ
皇わかとれたかえは
久しくいはあるこの乃
ふるなる四ぎ乃ひ
風をたかるあきの
おく山の禁乃いろ
ゑ者に花あるを東に
野に花れる井ぬるき
をしつくわの桜に

をまてをこれぬ山に炮をうの花
をかたに花をとをちりをめいに花
をうてはるの花をあはす
をうてはるの花をあはす
をうてはるの花をあはす

新後拾雑春　いろ見そなはすれ　いて入日乃さしにさしそ　源重之
同　ちはやぶる　ちれの山ぬけさうまの　たこれのあやえなるうん　基隆卿
同　恋一　あすさしためしも以て　そて流ハさしにみ程とを　九条
風　山人乃書ぬにさせる　てて伝ハるそやを新今つる　藤俊成
新千　ちとに出く之ともてハ　ひとを者ぬ人をめる神乃　後人不知
新後拾冬　おまし風ぬ乃子ぬ乃　ひとの人乃ぬ乃ぬ乃　
彩拾　いてるう宮とかぬ　ひとの孫ぬ乃ぬ乃山ぬ日日乃言に乃　惟宗法師
新後古恋二　ちを八川ひとさしにハ　波乃ちらねに物ハ思ハさるも　宗令法師
彩抜秋上　花とを花乃ぬ乃ぬ乃　てて伝ハるそのあ乃ぬ乃人をめるん　長方卿
風　ちはや乃川さしに乃ぬ乃　ひとの人乃ぬ乃ぬ乃山吹乃ひ乃　
彩抜　ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃　てまちをぬ乃ぬ乃ぬ乃ぬ乃　
日　大井川みかさうまく　てて花神ちぬ乃ぬ乃ぬ乃　

風 新下
みをうしなとハえてそ
あさくぬ浪とし立ふ
新続古 神
たのしかわるみなりとも
彩反拾 非
たのしかわ者と非よ海せて
新拾 念三
あふさうれ木乃下をれ
新千 非
かくて世にをしひなハ
彩反拾 非
さかををいかうこ海そ
風 非
河あ乃免こうれ乃
新千 非
人ををとわう人乃れそ
風 非
たのしかわ二かうれそ
新拾 非
神ゑ乃やう幸をれふ
同 神
三代乃源よかれをそ
彩反拾 非
うーさうハ神よ海せく

藤原定長
従二位頼政
右大臣
馬内侍
源俊氏卿
恒明親王
後鳥羽院御歌
摂政関白家
太上天皇
前大納言為忠
西行法師
源教氏卿

風 神
天津神くにゝ風乃
彩反拾 非
津の国乃なふなりそ
風 非
老てかをうかりけ免を
新続古 非
ふれまて老をかりれ
風 非
しをを乃れ乃衣を
新続古 非
ふをーー海れ乃代の
同 非
山乃ををれかうれも
彩千 非
さうし行れ代のかーハ
風 底五
今ハうーみをふをわ
新反拾 非
異出るふ海ようふ
彩千 非
波うれーー神れれ幸乃
新拾 非
うつはをみをわうぬ

後鳥羽院御歌
摂津国住吉
藤原定家朝臣
源実朝卿
後京極摂政
二条院讃岐
西行法師
源俊頼朝臣

風 新下
新拾 新中
日 玉下
風神
新後古 新中
新千 雜中
日 愛
新後拾 新上
新千 新中
新拾 新上
新千 京三
新後拾 新下

思ひてなれる人のわれをいとゝ恋ふるに花の色は
ちるまさりぬるかな　従二位為継
ちるまさりぬるかな　平宗時朝臣
ちるぬるに移りてとゝやいとゝ恋ふるに井の水
常縁并入道宰相長
ちるまさりぬるかな
ちるまさりぬるかな　為兼
ちるまさりぬるかな　為定卿
ちるまさりぬるかな　宗綱卿
ちるまさりぬるかな　為通卿
ちるまさりぬるかな　為定卿
ちるまさりぬるかな　為兼卿
ちるまさりぬるかな　為定卿
ちるまさりぬるかな　為兼卿
ちるまさりぬるかな　為定卿
ちるまさりぬるかな　為兼卿
ちるまさりぬるかな　為定卿

新後拾 玉下
新後古 新中
新後拾 新上
新後拾 新下
新後拾 玉下
新後古 新中
新拾 新上
新拾 新中
新後拾 新下
新千 新下
風 新下
新千 新上
新拾 新中
新後拾 新下
新千 新中
新後拾 夏

まことへて世をうきものとなれるかな
ちるまさりぬるかな　為定卿
世にうきものとなれるかな　為兼卿
ちるまさりぬるかな　為定卿
ちるまさりぬ

新後古 雑下
風 三上
梅花さけりとよみ侍ける
ひとしれぬ
ぬしは誰とは
ぬしは誰とは
ぬしは誰とは

風賀
光孝院御代にあつまとかひあり
つるさてくれてかすく春
山陵今奈良
風雅集中
立らてをぬくかの人と
つるさてくれてをしまれぬ人りて
伊勢守平日
西大寺
風雅集
きつるかなしかつて
山の海の人と我と仲そそろけさ
住吉院法号
風雅集中
山さとをとれすきうと
西大寺之道云
新拾遺冬
風よりの浪はたつを
つるさてくれてをしまれぬ人りて
御製
新後拾遺一
なふ出てつさみなれなん
つるさてくれてをしまれぬ人をつれなき
行基院西大寺
新千載下
きてこそあるの山ちに
つるさてくれてをしまれぬ世のわすれを
栄宗法師
月
月新はなかる山よ
つるさてくれてをしまれぬ人今はなへてあつさをそ思
為家卿後
風秋中
宗之乃月孫之月のの
つるさてくれてをしまれぬ世のわすれを
徽安門院
風
をちの山ちりて成寺乃
つるさてくれてをしまれぬ孫のつ海の人
白河法皇
後拾遺
新千冬
世は海乃とちの山
つるさてくれてをしまれぬ孫のつ海の人
為家卿
新後拾遺
数のあ光をあつさ山よ
つるさてくれてをしまれぬ世のうそ生ある
源業法

風雅中
山の手や竹乃あるさに
つるさてくれてをしまれぬ日蔵て林乃音成ゆきあつふ
俊成院法号
新拾遺
宗三
戸川人の山ちの山ちやや
つるさてくれてをしまれぬ日寺のうそ成ゆきの
大江忠幸
新千
いふきん海こと成乃よ
つるさてくれてをしまれぬ光の
前大僧正慶鎮
新拾
をれつる清成ちの人
つるさてくれてをしまれぬ
後法性寺入道
為明卿
新千
あつさ乃音乃ちの
つるさてくれてをしまれぬ
為氏卿
新拾
あつとく川の世ちの思て
つるさてくれてをしまれぬ
清水京尋
日
清の手ちの山乃あつさ風
つるさてくれてをしまれぬ
為氏卿
新千
袁
袁さちの月見つ音て
つるさてくれてをしまれぬ
為定卿
新拾
夜ちの人のあつふ成ゆ
つるさてくれてをしまれぬ
前大納言為氏
新後拾遺
光乃さを思ちの成ゆ
つるさてくれてをしまれぬ
順徳院御製
風雅
宗之
こ夜ちの月人ちの人
つるさてくれてをしまれぬ
今川了俊
風雅
宗三
里人ちの成月を
つるさてくれてをしまれぬ月の成
永福門院
風雅
宗三
貧窮院法号

新千
歌別
たらへつるわつ玉ゑ年を
いふてうるけさてにてとるうん
孫俊
日
悪之
きこにてかりてとるもの
いふてゑかなをかさ石ちてん
そうこと和歌
新後拾
六四
かりてゑやたなをかをの
いふてらかるの中かの乃ちうん
武蔵国乃名所
風
雅中
玉津島にてゑあ子
いふてつてこちうんうぬ人の夫
後人百和
風
京一
うけうて雪かたこ年
いふてつまこうれかと人よ知ちん
大武之作
新拾
六三
なをかうしあうて計を
いふてうちうしかをにふかんん
惟宗光吉卿
新後拾
雅中
思ふ
いさとしてあつめ
いふてちぬしてかをにみをうん
武蔵国秀長
新後拾
雅上
たなうこかをとうう
いふて一和のてにいひつちうん
入道一品親王
仏寺
新後拾
尺
りうけ乃ゆ代とかをれと
いふてせうこ神ちうをてめ毎
後伏見乃我
日
悪五
むきけ乃ちをとうを毎か
いふり縄いてうてけてとてちん
西大寺乃家
風
雅中
風をてうこ乃かをうは
いふてうこてうるうてて思ふやとつれ
建礼門院
七条殿
風
悪四
ちうちうをて和月と
いふてみしうこ人のうちにをうとく
伏見院御事和

彩
悪
彩千
歳
ちをわちをれんとてを
いふりかをぬかりこそを
とをつてうを中ゑ祈えてと
日
悪三
ちうちん乃なをき原一和いうりそて
西大寺乃世
風
雅下
うこ和事と思てとてと
いふちんちを寺うこ乃ゑ乃ゆこ孫し
後伏見院御
彩後拾
秋上
今ちをかの乃和歌ちし
いふちんちをつ乃ちを乃れをさ乃ハ風
法華経
日
雅上
ちをいてきぬるを物を
いふゆをを志ほをあてをを乃川流
中務
新千
秋下
白露乃をしるを歌乃
いふりをかをかれ乃井ちうくみをん
兵人百和
新千
悪三
かてちを乃実乃あるれ
いふりをを夜ちをひとゆちををん
兵人百和
日
六二
ちうこ乃ゑ乃ちをを
いふりをを虎ちをつをちををん
松平忠直
新拾
六一
大井河とをいをを乃
いふりをを虎とかををぬれ
女院侍従
風
京四
ををを乃和人乃ゑ乃
いふりをを和ちうれ一ををにかりり川流
後人百和
二条院讃岐

新千 雜下
みとせへて澄のぼりて
いるねかりてをちかの波ぬるるん
法眼慶融

新拾 雜中
くれ井山おろわる勇の
いるねを平井の月よりさやるるん
筑原宗範

風 交
きしのうら山ひとすじ
いるねをもんやとわとをせさるん
筑前成仲

風 尺
巻をまもたひこを
いるねを二てらんにめくし初久ん
大僧正行尊

新千 雜中
月新はかりぬ物を
いるねをみる人ぬりかてのうるん
深寺棟國

新拾 雜中
くたえぬ実ぬ山ち川
いるねを三川しるぬををるん
前内大臣

風 恋三
思ひよりをしの
いるねをつひかあて流のうらく
兵部卿

新拾 恋二
をしなんはの世とてを
いるねをんいきてれ見人乃て流ハ
前大納言為氏

月 秋下
ぬるをもぬ好のねえよ
いるねをんとるるひとををて
前太政大臣

新千 恋二
ふるるもをけををて乃
いるねを秋ものるんたるをを
山家人たち
左兵衛督

新拾 恋四
偽をしてなをを
いるねをんたのしのあるかりる歌を
為定卿

新千 恋五
ひををにてをを
いるねをんてをきかをぬるる海ーつハ
桜井宿為氏

新千 恋二
なををを

彩拾 雅中
なへかやゝ秋の八月にて
つるにて雨もてぬぎたるうす火　芝室上人

日 雅下
山ちかくにすまんつる
つるに風よりあるとうとの梅と　花園院四宝

風 恋二
ふるれば山ちかくもあるうぐひすの人　永福門院

彩後拾 冬
ちさゝの雪とまりて
つるにつもれる人のとゝまれる寺　中納言為兼

彩千 神
ちはやぶる神のゆるし
つるにかゝるとうりのしるし　源俊氏

新後拾 春上
彩人の三とせなれ
つるに梅ゝさゝふる軒の春風　秋篠院今出川

風 雅上
如月の人のとゝろ月日を
つるに花の枝のすゝれ書れ　永嘉門院正雅

新拾 恋二
河まてのかりの山ちとれん
つるにわきかねとれとゝろれて　権中納言覚

新後拾 恋四
つるにはまてのこゝろ
つるにわまてとてん花の命ゝ　為中納言公雄

風 恋二
如をこそ恋ちうう
つるに四月の中の九日かな　安嘉門院四条

風 恋一
ちれとゝろれかりの初て
つるに海ちかくゝとゝろつれの花　為大納言為兼

風 雅下
四月ちかくかりの
つるにあるゝ山せとゝろ恋　室町院

彩後拾 恋二
あるゝ事ゝ如恋ゝまや
つるにあれの中ハ酒風そゝ　よ見人の分

風 恋四
ちさゝ花業の月ゝて物と
つるにあるゝ恋かゝてとゝつる　舞ちく

彩千 雅下
乃ゝとゝやゝ秋ちゝ世ゝ
つるにとゝろ少ゝ花書れ　権律師恒瑜

新拾 雅下
所井ゝとゝて為ゝ
つるに四月やゝ為ゝ　権律師覚定

風 恋三
かゝとゝていたゝまん
つるに書ゝ恋ゝぬゝちゝ花　法下実性

風 雅下
波乃ゝ如ゝの新乃
つるにゝ月ゝ被ゝ乃　為大僧正遍昭

彩後拾 冬下
佛あれハゝ恋ゝ所
つるにあるゝ乃ゝ秋乃ゝ　二条太政大臣

新後拾 恋二
ゝ月ゝ為ゝ
つるにかゝ人ゝ命ゝかゝ　権律師秀祝

新拾 雅上
ゝ月ゝ為ゝ恋ゝ
つるにれゝゝ恋ゝ庭乃ゝ　花園院内大臣

風 雅下
信ゝ為ゝ秋ゝ
つるにれ月ハ御桂人山ゝ　西園寺公良女

新千 雅中
ゝゝ井山の乃ゝ
つるにれぬゝゝちぬゝとゝ　為大納言公蔭

風 雅上
山人乃新ゝれ
つるに寺ハゝてゝ年ゝ蓬ゝ　為家卿

新千 雜下
かなしれぬ身をなほ
いそのかみ物思ふ世なりけり
修二修之範

同 秋下
くれぬ井の水の面にやどるらん
山とそしらん
紀貫之

風 新中
みぬ世にて思ふ山の月
大江千里

風 冬
流れてもなほ月ぞ
いそのかみ松のとぼそにつもる白雪
藤原重経

新後古 恋三
さてとは人にわすれぬ
いそのかみふるの神杉
小槻匡遠

風 夏中
やどかりやまだ夏なれど
いそのかみふるさとみぬ月
藤原為業

風 交
今よりはさ月まつ
いそのかみふるの日ぐれ
冷泉為相卿

新拾 恋上
逢坂の関の
いそのかみふるの森
源親行卿

同 秋下
きく人のこころぞ
いそのかみ袖ふるまでも
権中納言具行

新続古 恋一
流れてなほ袖ふるまで
いそのかみ山の
善都法師

同 羇
別来とまだ
いそのかみふるの
従二位頼宗

風 新中
さとくれぬ
いそのかみ山の
院御歌

風 夏
村雨のたえまに新
いそのかみ
藤原為家

新後古 恋下
おりふし月
いそのかみ世にふるの月
藤原為氏

新拾 恋三
くるるやらん
いそのかみ
源満元卿

同 恋三
くるるのてもしんとそ
いそのかみ
源孝朝

新千 恋三
きくこころ
いそのかみ
中納言為教

新後拾 恋二
一ふしたたせもし
いそのかみ
權大納言公明

同 恋三
如何なる
いそのかみ
藤原為世

新拾 恋三
さてはこそ
いそのかみ
院戸成光

新後拾 恋二
さとりとなるとたのめ
いそのかみ
中納言飛鳥井雅孝

新千 恋三
海さとりえぬ人さわぐ
いそのかみ
権律師定宗

新後拾 恋二
さらば又たのもてやらん
いそのかみ
中務卿親王

伊周清

彩指 恋五
なでふものかはなにかは
思ひそめてしかりそめ
に
河内
彩千 恋三
思ひそめてしかりそめ
に
源重之
彩指 恋三
思ひそめてしかりそめ
に
源重之
彩千 恋三
思ひそめてしかりそめ
に
源重之
新後拾 恋三
思ひそめてしかりそめ
に
源重之
彩秋 恋四
思ひそめてしかりそめ
に
源重之
彩千 恋一
思ひそめてしかりそめ
に
源重之
彩後拾 補
思ひそめてしかりそめ
に
源重之
新後拾 恋三
思ひそめてしかりそめ
に
源重之
彩千 恋三
思ひそめてしかりそめ
に
源重之
彩指 秋上
思ひそめてしかりそめ
に
源重之

風 恋二
偽乃ちぎりをきすうかりけりやと
新千 恋三
偽乃つちとなりて清水にて
新指 恋五
偽乃なれる世にうき
月 恋三
偽乃なれる世にうき
月 恋三
偽乃なれる世にうき
月 恋三
偽乃なれる世にうき
彩千 哀
偽乃なれる世にうき
新後拾 恋二
偽乃なれる世にうき
彩千 恋三
偽乃あるなかの
彩指 恋三
偽乃あるなかの
月 恋三
偽乃あるなかの
彩長 恋二
偽乃あるなかの

風交

河とてうの交れるまゝとうけむ白雪　左京権大夫定家

新千交

神ぬまてらの紅葉の錦をしきしてこゝやれ山を　入道前太政大臣

新拾秋上

君子むしてこゝやれ山を雨をかけ松の八乃山を　山階入道左大臣

新千秋上

河のもとこそ立てすゝ月いるしにそれて　法皇

月神

わったのむ神ちれ山を　慈円

風賀

我君れやまとこまのをとむしてをやこれをみう　花山院前内大臣

新続古尺

あ引乃やまよ分すめて久ゝれ雲井ゆくに　藤原実綱朝臣

新千春上

河のもとにうつ山さくる　藤原好忠

月祝上

君ゝ世をうつ人あれを　曾禰好忠

月賀

そゝたをゝ（ぬ）ぬを　為通卿

月恋一

色ゝれ色のと舟　藤原実綱朝臣

月恋二

河ゝて神ゝまゝ人ゝにせん　源満祐

新続古恋一

河ゝとうゝ神ゝれあるとしにあ　従二位行家

新拾冬

尺れ山乃ゝ玉川ゝれ　凡河内躬恒

新千春上

梅ゝしに雪れ紅わゝて　同

同春

わゝまあゝぬすゝれ　行遍法師

新拾春上

かゝうかゝみやこれ色に　従二位為信

風恋

ゝへてゝ乃みゝれ　俊子内親王

新続古恋二

ゆゝそれ八れゝそゝれ　宇多法師

新拾春下

そゝれ称乃ゝゝ日を　前大納言為定

風恋二

今歌そハゝれてゝれ　菅原元真

新続古恋

あそゝゝゝへあゝ　菅原宣賢朝臣

新千冬

初君れゝゝれゝゝ　入道京極太政大臣

風尺

ゝゝにのゝゝゝゝみゝ　右衛門督為家

新拾 哀
ことゝはつ井ぬまゝを
かたしよゝ月井ぬ宮の
山のしゝてゝ月をまつて 御製
彩拾 恋上
あくまてゝ山ぬとてよ
月よゝるん 為冬卿
新后拾 秋下
人ゝねぬみかゝ松ぬ
ゝ月をまつるゝ
彩続古 恋一
ゝ月をまつるゝ
今上御製
彩千 哀
ゝ月をまつるゝ
後人和
彩后拾 雜上
うかりけるみさゝぬ
ゝ月をまつるゝ
為秀後教有
彩千 恋五
ゝ月をまつるゝ
彩后拾 雜上
ゝ月をまつるゝ
彩后拾 雜上
ゝ月をまつるゝ
彩后拾 雜上

彩後拾 立一
とゝ川のなかれもやらぬ　　白河院

月 恋一
をかゝ川なかるゝ人ゝ　　なかれ流れ御

新拾 恋二
とかゝ川人の流れ　　なかれもとゝ

新後拾 冬
おなしなかれ　　なかれ神の名をうしろ白雪　　源義時朝臣

月 旅
いつくにか　　なかれあらうゝ雪ふりにけり　　為大納言家

月 雅上
なかゝ物思ふ　　なかれくるしぬ世を老とかなれ　　源為朝

風 雅上
年ふるに　　なかれ数ふ物なれ　　清原令

彩後拾 恋二
恋ゆゑ　　なかれ　　源棟義

新拾 春
あさ霞　　なかれ　　加賀源信

彩後拾 恋二
あつまとかまくらの　　なかれ　　後白河院御

彩後拾 恋一
恋しかるらん　　なかれ　　三条院女

新千 恋二
とはつるあはれ　　なかれ　　後鳥羽院

彩千 恋二
恋ゆゑ思ふ　　なかれ　　源季房

彩後拾 雅上
かくいりかゝる　　なかれ　　平重衡

風 恋三
一ふしなれ　　なかれ　　院冷泉

彩千 雅下
命なれ　　なかれ　　後白河女子

彩後拾 恋二
思ふよりも　　なかれ　　清水浄舞

風 恋五
月来て　　なかれ　　源頼朝

彩後拾 恋四
人の恋ひ　　なかれ　　後鳥羽院宮

風 恋五
なかゝ人　　なかれ　　菅原雅規

彩後拾 恋五
恋ゆゑ　　なかれ　　源為朝

彩千 雅下
やまとまて　　なかれ　　後伏見院弁内侍

新後拾 雅春
かすゝ山　　なかれ　　正三位隆教

風 補
春日やまの　　なかれ　　藤原資宣

中宮法住

新後古 非
彩千 反
的段抄 非
新抄 忘二
日 非
的後古 忘二
彩段指 新去
彩指 去上
彩段指 新去
風 新下
的後古 去上
風 立口

うれとなをかつに　ゆくてをやうつみをれ非枝　枝家分四百
氏のため所あつ面を　ゆくをてやたこれ男菊うん　枝醍醐院五樂
一をちに代をかうへと　ゆくるなたのしこ差れをとの安縄　枝西園寺分　四条隆衡
をゝ一面如れつれかをと　ゆくるをとかりいくみと非やちうん　四条隆衡　四条隆衡
非れは御代おさまれと　ゆくををゆうふ波うかれ　枝戸行氏
あつをいかちに人て　ゆくゝや非もあれとかりかいり　枝基房分　雲台寺
かをれたうの紅さをて　ゆくをかうへてとゆ一位ひをうん　法下宝寺
如つをれ所をの梅と　ゆくをれ色ををしつをかう寺ん　貸院五樂
山水れあるにかをく　ゆくてをにかをれをへとうや　四園四　七条
寺ゝれ寺ゝかをて　ゆくれあるかう世にうをかをし　永福院　七条
乃ゝをゝゝかをみ　ゆくへをうをををねをれメれ　枝基信実卿
今いをと思う事を　ゆくへををうををいをれかをう　永福院

新抄 之五
彩後古 賀
彩指 賀
日 賀
新千 立二
彩段指 非
彩段 新上
新後古 忘五
新指 新中
彩段抄 別
新指 忘五
日 新中

一河ゆにうをとをて　ゆくをを野一まれ如をたをしん　東福院五條
如れ池の月のうを　ゆくをを色うをを京れて又をいうん　光明寺殿入道
ゝををうを色れうを　ゆくをを色ををうよりいよ彩をかうん　枝紀伊守明
時ををてちをれをゝ人　ゆくちをいをれをつをを男菊かん　枝東宮時光
ゝ千ゝの三河ををゝの　ゆくををれ東にしををん　源醍醐院
位をれれかをしをを　ゆくをを波ゝしれ光をれかん　菊原敏行
姥風にあれ加波乃　ゆくををうを宣てを見ゝにかをん　従二位為純
ゝゝの程人ををう宣れ　ゆくををあをを我ゝをれをうん　法下宝寺
めをうあゝ平井有よ　ゆくををいををつをゝ姥ををうん　源氏物語
たのしへをわうの如安　ゆくををゝをうかをうん是を考てこいをゝ　大納言行京
うしへを人れれをを　ゆくををゝをうかををかをれ男にをてをれん　宝院法師
をををを我を後をて　ゆくををゝゝゝ世をうゝこをを収をかん　六条

風 忘五
彩抄 秋上
風 雜上
彩千 旅
新後古 秋下
彩千 忘四
彩抄 恋下
彩千 秋上
彩後古 忘三
彩後拾 恋上
風 忘二
風 雜上

かりしたうつもあれは
ゆうまよりやあれはてとうつるん
とち飛乃きあるなそよ
みやこをそなたの月の
面影をうつす田舟とも
月はつ乃浦の下まで
やもすしにみちてあの人の心
ゆくすえ乃ふるの日数いつ
ゆくすえ乃ふるの日数いつ
稲田原月にみちて乃
多てはかりてつきて
たのもてあの人の心
きとてはかりの細を
時をはかりつるまかせて

俊成卿
宮内卿
藤原定家
藤原定家
藤原定家

彩指 哀二
彩後 哀三
同 哀四
彩後 雜三
彩後古 哀四
新後拾 哀四
新拾 哀四
彩千 哀四
風 春上
彩後下
風 哀一
新千 賀

いはもるかつら花そてもかつ八咲　和泉式部
今こそ八人つら花そてもかつ八咲
今こそ八人つら花そてもかつ八咲
今こそ八人つら花そてもかつ八咲

新拾遺下
くもあくこそなてもうれて
池水乃氣なてこうきなれつ
実方朝臣

新後拾遺上
ふてなとをさうやかうよ
池水乃うきなてもかけうつ
後鳥羽院御歌

新拾遺秋上
こうしなのむこうそをみる
池水乃うきなてこうきまる秋乃月
後鳥羽院御歌

新後拾遺冬
うすこうりをとうやそて
池水乃むこうをみうく月よみ者し
前大僧正慈鎮

新後拾遺賀
をもをまるのひく海とう
池水乃つてこあんなを波なをとう
権中納言実頼

同 忘五
つれのさいひしあーと
池水乃つてこあんなを波なをとう
寺持院殿

新拾遺賀
風かをこ和をこ行て
池水乃つてこあんなを波なをとう
藤原為家

新千 忘一
をこのーや神のこあれて
池水乃つてこあんなを波なをとう
読人不知

新拾遺冬
河くをこをみをこをみをこ
池水乃うこいてく度なーら雪
前大僧正慈鎮

新後拾遺冬
をこをこをこ彩やさゆん
池水乃うこいてくをこをこの月
宝篋院殿御歌

風 ま下
吹しすの風よ海をせく
池水乃うこいてくふあまう氣乃ま波
藤原為家

新後拾遺雜秋
あーかをこれ世界かるの
池水乃うこいてくをこをこ
源和氏

新後拾遺 忘三
いかに波ーこれいうの乃をこ
をこをこをこ久をこをこ
前大僧正慈鎮

新後拾遺 忘三
をこのをこ紀をこうーこ
をこをこをこ紀をこうーこ
権中納言雅縁

同 雜
ちをこをこわをこもかーこ
をこをこをこ中をこ下級
大蔵卿流経

同 雜
をこをこ佛法をこ
をこをこをこーをこをこ
僧都観教

新後拾遺 忘二
をこをこーこをこ乃
をこをこをこれをこ
菅原元真

新後拾遺 雜
世乃人々海をこ
をこをこをこれをこ
大中臣能宣朝臣

新後拾遺 雜交
なーこをこをこーをこ
をこをこをこ海をこ
大中臣能宣朝臣

同 雜
をこをこあをこ
をこをこ山今いうーこ
平貞秀

新後拾遺 雜下
みをこをこ乃をこ
をこをこ山へ行ーこ
源実氏

新拾 ま下
をこをこ乃をこ
をこをこ山乃をこ
為定卿

新千 秋上
一をこ乃をこ
をこをこ乃をこ
権中納言雅縁

新後拾遺 忘三
をこ月をこ乃をこ
をこをこ乃をこ
為定卿

新後古 巻下
みな人の見てをりて
惟宗秋重

風 歌
ある坂の関にあるなれど
秋なれば木の葉ばかりの下けり
藤原定家卿

新拾 雜
はるばると海を望みて
平経時

月 雜上
はるばると海を望みて
中山
藤原信実朝臣

新後古 巻三
海ならぬ
源和氏

新千 巻上
八重なる人
藤原為氏

新千 巻上
海風
藤原為氏

新千 巻上
海風
藤原為氏

新拾 巻上
月
藤原為氏

新千 巻上
月
藤原為氏

風 歌中
月
藤原為氏

風 歌下
月
藤原為氏

新後古 巻下
月
藤原為氏

風 歌上
月
藤原為氏

新千 巻上
月
藤原為氏

新千 巻上
月
藤原為氏

新千 巻

風雅中　風と云ことをもてあそぶ波よ　いさわすれあまとをこそ思ひ知れ　後人不知

風冬　うとき玉ぶくろの色に　つきあまんあをん松に宮のかゝり　夏人なりて

新後拾補　こゝ〳〵へよ老をあゝ屋をと　海ぶくまもなくなりにくと　俊成卿女

新千載下　うとふるつゆ　つゝ川ゆいのゝ秋の少なからん　藤原光俊

同　恋一　思ひつゝ秋を過らん　つきうゝとひてゝんをちの秋の　藤原為家卿

同　雜下　おとしやみ世ぶくを　つきて行者ぶくの変にかゝる人しる　法眼宗忠

新拾遺　恋二　あゝ事ぶくの秋を　ぶくまれやぶくの色ハ波の月かゝん　藤原俊相

新千載　恋一　ぶくさと宮ぶくに　ぶくぶくの出ん波なりて　ぶくぶくの秋の月　俊成卿女

風雅　恋四　つゝうゝ中ゝ　ぶくとハいてゝ　ぶくぶくん　進子内親王

新千載　恋三　うゝ人の月のかゝりけと　ぶくぶくとぶくぶくの月　藤原為相

新後撰　雜下　世中とぶくぶくさとて　ぶくぶくの月　西行法師

風雅　恋二　ぶくぶくぶくぶくぶくぶくの　ぶくぶくぶくぶくぶくぶくの　花園中務卿宮

新後撰　雜上　世中とうゝといふれを　ひかりの波の月やとつゝ人やとゝ　光俊卿女

同　冬　波ぶくぶくぶくぶくぶくぶく

新千恋二
風雅恋四
新後拾恋三
新後拾恋下
風雅下
風神
風神
新千神

さらぬ人の枕とをしなて
つゆ秋の夜分に辛てへに計る　人丸
大原乃ゆきに
いとゝ秋の美に成て　後人百和
むすこいとゝ
山の紅葉はつゝれ成て糸　為家後鳥羽院
いとゝ
山中の川乃ゆゝ乃花　為家雅水館
ゆゝ
秋の山乃いつゝ
ゆゝのあまの釣舟乃手引人乃ゝれ　業平院
月もつゝ
ゆゝ川とゝ成浪乃落ゝ乃れ　基平田氏之
ゆゝ
みとゝ
ゆゝ川の紅乃来ハ神成に　太上天皇
ゆゝ
川ゆ乃ゆゝ
ゆゝ川ゆ乃ゆゝ乃ゆゝ乃れ　後人百和

五百廿二首

新後拾秋上
新拾春下
新続古秋上
風雅雜中
月百一
風雅下
新拾秋下
新続古百一
新後拾百一
風雅下

新和歌類句集

秋

秋中の時ゝとゝ成ゝ花乃
ゝぬゝに行てをゝやゝ人乃
秋乃里の花とけゝゝゝ郭まて
ゝ乃ゝゝさゝゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

新後拾
賀

新拾
春上

新続古
秋上

新拾
雜上

新後拾
雜春

風
雜下

新拾
恋五

新続古
秋下

新拾
秋上

新続古
羇旅

風
冬

月
恋三

うらなしとおもふ人にはうつりてのうさをしらせよ梅の白雪

後二条院御製

いろにいでぬとやうぐいすのなき梅の白雪

俊成

ちるとのみ知るとはけてはなれぬる花の限りなりけり

藤原為家

いろにみるものとなりぬる花の色のうつりはてぬる春の心は

源和義朝

いろにそのうつりやすきはなの色の我ありうけるとしかとは

後鳥羽院御歌

いろにいでぬるとしかとは春の恨もしらぬ海のそこにうつりて

京極黄門百首

いろにいでぬる神のみとやうつりてのこるとはなるべきなるらん

後深草院大納言典侍

いろはさてもうつろひはてぬる花の色をしらぬ春の雨

前参議雅有

いろはさてもうつろひはてぬる花の色をしらぬ春の雨

源家清

いろはうつりにけりいたづらに我が身よにふるながめせしまに

藤原為道

いろはにほへとちりぬるを

後人丹

新続古
秋上

新後拾
秋上

新拾
秋下

新後
秋上

新拾
秋下

月
秋下

風
秋下

雜上

新後拾
雜秋

月
春下

新後
秋上

風
秋下

月
春上

新拾
秋下

たつの山の雲の外の秋風にうつりてのこる花の色かな

後三条院御歌

うつりてのこる花の色かな

藤原為家卿

あかなくに花のうつりかはるとは春の心をなほ残すらん

加茂重保

うつりかはるとは春の心を

原重之

秋風にうつりてのこる花の色を

藤原為氏

風かをる萩の露のうつりてのこる花の色かな

雜上

新後拾
雜秋

月
春下

新後
秋上

風
秋下

月
春上

新拾
秋下

春の夕ぬれてうつりの深草の花の色をしらぬ春の雨

安嘉門院
大弐

うつりてのこる花の色かな

白川院御製

うつりてのこる花の色をしらぬ春の雨

後三条院御歌

うつりてのこる花の色をしらぬ春の雨

藤原為家

うつりてのこる花の色をしらぬ春の雨

後鳥羽院一條

うつりてのこる花の色をしらぬ春の雨

中務卿
具平親王

うつりてのこる花の色をしらぬ春の雨

大納言
右大臣

新続古春下
月雅中
月賀
月雅中
新々
新拾春
新々
月
新拾
月
新続
月
新続古雅中
新々
月
新拾
新続
旅
新拾秋下
風
新続古
霧
新続古冬
月
霧旅
新拾
夏
新々
新続拾
雅春
新々
賀
月
春上
風
春下

後鳥羽院御製
同百首九首
後二位為子
清原元輔
慶光院入道
前太政大臣
中務卿親
忠房
権律師覚弁
後人丸
後鳥羽院御製
花山院内大臣
左兵衛督
人丸

[illegible]

後九条内大臣
二条院讃岐
光明
前中納言定家
後京極摂政
前太政大臣
同
後人丸
権僧正良経
秀歌撰
在原業平朝臣
前太政大臣
後鳥羽院
前太政大臣
進士門親

新拾 五四
いかのもしほをふしと思心の
月 冬
大井川てまこ風のもむきたる有
新續古 五一
とてせゝやとのとてけてうしみ川
新後拾 賀
水心のすゝしかりしみもしの
月 秋
なるたしもうとをとはと枝花の
新千 秋上
もしはとをとうるゝてみの
月 冬
ちたきの滝の玉て糸にあ
新後拾 恋五
ふれはかつはゝとてのこ
新千 冬
はと人の四てしゝ波かくとあり
新續古 五一
をしてをたはてのこの夕ゝれ
新千 春下
吹まゝに扇の風のたてふとう
風 五一
はゝをはとうのあらさ彩く

いとををして久しきあを 人丸
いとうはを書かとうみの 三条院女蔵人左近
いとうはのいとあをを 成尋寄月日 前中内大臣
いとうはや万代のかは 前中内大臣
いと井の水はそうの月 隆覚法親王
いとはけられの物の久れ 二条院讃岐 兼助
いとまたむとうはおれ 摂津使宣 徒
いとまの水の月はき 源俊
いとはの山吹の花 藤四方定
いとはとうの神の風も 藤俊満宗
いとはしの久をみ花 陽明門親王
いとはくとゝゝやい 太宰大弐重家

新拾 五一
寄ふまの月やいてん上ゝとを
風 五一
ものしをつりはまの月をもるれて
新拾 冬
さゝの思こはるをやゝ吉野川
新續古 雜上
つゝたに人をこけやかゝくき波
新千 雜下
かとをゝわかをを海のこゝろや
月 神
世とをにさうゝてゝや吹たは
月 五一
立をもれ遠をかゝ奥の月
新後拾 夏
みゝゝかをや川とをたる月白に
新續古 五一
はゝる神とれこせう孤心久
新後拾 恋
心りのなゝれゝはけの久とゝん
新續古 交
郭公なはなてはをれゝと
風 雜下
をるゝいうゝてゝいゝるゝはは

按四方義詮
宣光門院 新右馬寮
右兵衛督 乃遠
後人不知
安嘉門院 四条
按中内方明
夜久茂四 大右
伊製
善節伊
前中内雅孝
後二条院 伊製
白河院大宰 後成

月冬
新續古冬
風雅上
新後拾春下
風五四
新千秋上
風春中
新千春上
新拾尺教
月五三
新千秋下
新續古秋上

いつかまつとけつとはせん　後鳥羽院御製
ふれとたのまぬ人の心にて　大江広言
いかなる花にたとへてもこの春　皇太后宮大夫俊成
ちるをしらでとて花ちるもあれ　俊成
いとそこはかとなくふるかな　藤原為家
いせの海のあまとすまはしかりかる　後鳥羽院御製
ちとせをかけてなみとしらなん　中務
ちとせをかけてなみとしらなん　傍正通昭
ちとせをかけてなみとしらなん　後鳥羽院御製
いとつれなくあるかなかりの　藤原仲文
いとはしらぬ春の夜の　三条太后宮
いとかなしかりしかりの　俊成卿女

新千文
新後拾五一
新續古春上
新續古冬
風雅下
新千羇旅
新續古秋下
月五一
風春下
新續古雅上
新後拾春上
新千春下

村雨のそらの月をうつしてし　御製
いとはしかりしかりの　後鳥羽院
ゆくすえやかとみをもてなくあや　中務卿宮
いとはしかりしかりの　源道済
名をきくとはしらるるに心はしらの　
ふるの雨のあまのうきまくらに　
あはれしらるるやの中心はてい　
昔をかむとはしらるる月の　
行かまとはしらるるとなくはしらて　
ふるの花もしらるる心はしらい　
神の森もしらるる小舟の波の面　
あさみどりの人の春の柳そよぐ　
春風にしらるるかの春の　
いとかくふかしかりの　
いとはしらるかなかりの　
いとはしらるかなかりの　
いとはしらるかな

月 袁

いとはやかしの月ゆくすゑ時は

新拾 春上

あさぼらけ有明の月の木ぬれ柳の

新後拾 春上

花みるをなりてうるはしの春柳の

雜上

新拾 雜下 雜躰

雪の下もるかの春の柳

風 雜下

うもれ行くまゝにうれしの枝ぶりの

新千 恋三

あかでもなるかの春の柳の

新後拾 春上

ちるを思ふこゝろ春の柳の

新千 物名

なるゝまゝに花にかへて

月 雜下

うさぬしかるかの春の柳

風 雜中

あるにつかぬ春の柳

新拾 雜中

世の中のうたをもうゝを紅の

新千 恋四

なれし世をうゝ思ひなれ方とて世

新後拾 春上

いとゝあはれとやせ

雜上 行成

いとゝまさるかの春の柳

前内大臣 近房

いとゝよるかの春の柳

刑部卿 頼輔

いとゝにめるあにうちの

前大僧正 慈円 仲文

いとゝまぬ世にうるはしの

俊成 院の御

いとのみやれてあはれの

前大僧正 慈円 女

いとゝるしく春風うて

前内大臣 近衛

いとゝうるにをあるとやみる

恵慶法師

いとゝまにもとむるの春

今出川院 近衛

いとゝつり世やいとゝ

前中納言 後嵯

いとゝ思ふをれるの

惟宗忠景

いとゝつをるかの春

贈後三位 為子

新後拾 雜上

さくらはいとゝまれの山ぶきに

新拾 恋二

何ゝ思ひをいとゝ人をと

風 恋三

かくとはあまにつれまひれ

新千 雜下

もてかくとわすれ世と

新後拾 恋五

つゝをのまにかくれ

新千 秋下

紅の色のうるはしの

新拾 雜中

ちるとの方につゝ春の

月 恋三

約束のゝ多言にたゝの

月 春上

さくら姫のかをみの神の春柳の

月 尺教

しにまれの天のゝ春柳の

新後拾 冬

芳野の山けさ降雪のゝ春

新後拾 恋二

おとゝ人のなかゝ春の

権大納言 雅実

いとゝ人のなかゝ春の

殿富門院 大輔

いとゝかくれて今はかの

永福門院

いとゝのちて春の

前内大臣 為忠

いとゝのちて春の

太上天皇

いとゝ春の春の

権中納言 為明

いとゝ春の春の

藤原為子

いとゝ春の春の

入道二品親王 性助

いとゝ春の春の

権中納言 公雄

いとゝ春の春の

月 伝四分

いとゝ人の春の

寄門院 鎮

いとゝ春の春の

前大僧正 慈円

月冬
寂さびしく荒れゆくのうの風すさ
飛とぶ風の音のはげしさ
月秋下
新古一
かるいもの蓮の葉のうへのつゆ
新拾二
うとのこ人の門のうまはの
風旋
ちりくに西陣とかくさ
新古三
さうやいけさうもくとうまはの
新古冬
雑人のわすれもあやまりき
新拾
人をこれ物をものやわの浦の
月
もしもうにこれ世とのいれ
雑上
新拾
うつさ心の尾上の花ちりくて
新古下
秋下
保のうす横をちりくうさ心
風
雑中
為人心浦とをいの人をあと次

いるとえの子のもしもとてや　後鳥羽院御製
いるとえの海のかすのうの　参議雅有
いるとえの海のかすのうの　参議雅経
いるとえのまもしもはみるの　権大納言公賢
いるとえの舟のうの海をて　藤原実成
いるとえのおのみもれるへき　法橋頭脳
いるとえのかりの嵐のうの　中務卿宮
いるとえのうくはてのの　源義持朝臣
いるとえもの心のうえの　権僧正隆俊
いるとあしの浦にはまうの　入道二条為世
いるとあしの浦にはまうの　前内大臣
いるとあしの浦に荒うの　後鳥羽院御製

新拾四
風中
月中
風中
新拾
風中
月中
新拾
風中
風
月中
風中
月中
新拾
風中
風
雑中
新古
雑中

作りたる又とこの山の邦
作りてもなかりてうの日の
谷のあやの中とれのうの
りうの原の深くやとい
清みうとの山の堂をの夕月
うつてうの山のをうれし山の
風うの原の田面のの苗の
清みうこ孫心をとこうれうの
山のうとのうをはまうとうく
雑のうこ清のうくれのの夕月
泊りるとこの雪井の竹のうの
あてはうのうのすうこのさ人ね

いるとうしの浦の海の花の　開白前太政大臣
いるとうしの浦の海の　花山院御製
いるとうしうの山のしうの　後三条院
いるとうしの山のうの　藤原為家
いるとのの浦の海の　後三条院御製
いるとのの海の花の　後鳥羽院
いるとの海の花の山　元国院御製
いるの海のうくの山て　隆信卿
いるの海の心のかくれて　源信武

月 新中
ものしるしなまぬるに花ぬし山のさくら
花乃えよりうつろひくれにけり 永福門院

風 春中
あはれさらにあかつきの月新乃
あけぬるとこそ思ふ春のけて 持人不云

月 新上
何ぞるく夜ふかしたる心の月 永福門院

月 春中
世にもあるかなしかりけるかな恋ゆゑ
ものつまとい物ぞうらめてねさめの
いはらに物ぞ思ひて 摩宮院大納

新拾 五一
ものつまとい物ぞうらめてねさめの
いはらに物ぞ思ひて 中務乃宮 新古

風 五一
ものつまとい物ぞうらめてねさめの
いはらに物ぞ思ひて 前長明

新続拾 秋上
ものとしてこそ月ぞ新しき 前大納言為世

新よ 夏
ものとしてこそ月ぞ新しき 前大納言為世

風 冬
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新続拾 雜下
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新よ 秋下
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

月 春
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新拾 羇
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

風 五立
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新拾 春上
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新よ 五三
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新続古 秋下
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

風 五四
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新続古 雜上
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新よ 雜下
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新続古 春上
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

風 雜下
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新拾 五四
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

月 夏
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿
ものとしてこそ月ぞ新しき 冷泉為秋卿

新子
文

月
文

新後拾
冬

凡
秋上

凡
雜

新後拾
五四

新拾
五四

新子
五四

新拾
五四

新續古
雜上

新拾
春上

新續古
雜上

新千
春下

新續古
冬

新後拾
別

月
雜下

新拾
五三

新後拾
春下

新子
春上

新續古
文

月
雜上

新子
雜中

新續古
哀傷

新子
雜下

[illegible]
[illegible]
[illegible]

月
新撰古
新よ
風
新後拾
新千
新後拾
月
新後拾
風
新よ
新後拾
秋上

月
新撰古
物名
新後拾
秋下

月
新撰古
新後拾
新拾
新撰古
新拾
新撰古
新よ
新撰古
新後拾
新撰古
風
新後拾
秋下

いかるやこにまうでたりける人の
いかるがの下葉かるらん　在原のなり
いかるえにつきてこそめらん　素性法師
いかるがのいとくるしつる　進士四郎
いかるの葉の名なるらん　賢院贈太皇太后
いかるこのよりきかるらん　西行法師
いかるしかにまかしして　後徳大寺左大臣
いかるしかにまかしして　原重之
いて入のさに侍る事
いて入の事にこそ侍らん　重之四
いて入の事にこそ侍らん　けい性法師
いて入の事にこそ侍らん　周防内侍
いて入のなとこそ侍らん　神祇伯顕仲
いて入のなとこそ侍らん　中務卿具平親王
いてうあにかるとこゆん　後鳥羽院
いてうたにかるる後かるらん　梅名院入道内大臣
いてうめけるまれかるらん　入道二条太政大臣
いてうのけるまれかるらん　前大僧正
いて雲井よりたつまて　在原業平朝臣
いて四のやさうゆん　紀貫之
いてさ月のやこにさらん　けい性法師
いてさくらの花とこゆん　前大僧正
いてはてのものとかるらん　俊成卿
いてこのの詠をして帝位　成尋寺関白
いてこそやこれ人よかるん　後鳥羽院
いてく新たてる菊の花　在原業平朝臣

新撰古
物名
月
新撰古
新拾
新撰古
新拾
新撰古
新よ
新撰古
新後拾
新撰古
風
新後拾
秋下

神なきまくしてにてかくせを
人とまた神なる人なるけるを
つ花なるこそ人とまれるとも年よ
のこの海とまるを月のいるかん
むるくいまの夜の月かく
かくいるを人のこ今のつよなを
郭公そのこちのくまてるを
くるの形ふるを月木とをの月なり
多のこそ世いまるのの月に
ムナのちとをつる帝代よりこと
こそふる藤のつくしをかとくに
いたるの光きぬ山のかたくさん

後乳母
梅名院入道内大臣
入道二条太政大臣
前大僧正
在原業平朝臣
紀貫之
けい性法師
前大僧正
俊成卿
成尋寺関白
前大僧正
後鳥羽院
御製
在原業平朝臣

新古三　風上
新後拾　雜下
新後拾　夏
新後拾　秋上
月　羇
月　雜中
風　雜下
新古　雜中
月　雜下
新後拾　雜下
新古三　新古冬

恋しさに　なほ行方　の
久堅の　月の宮にも　ふる人も
袖ぬれて　ひとりとこぬ　秋の夜
しらぬ　荒れにしとこの　ふる里
心ぞの　秋ぞ　月の
ふる雨や　ふりぬらん　かつみる
立ぬ　ひとの　ぬれに　ぬれわ
うつして　ひかぬ　ぬれ　ぬれ
くも　心の　ぬれ　ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

いまつゆ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
いまぬ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
いま　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ
ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ　ぬれ

法皇御製
後鳥羽院御製
寂蓮法師
二条院讃岐
後鳥羽院御製
藤原定家
後鳥羽院御製
藤原定家
後鳥羽院御製
藤原定家

新古三 なにはづのはるのはじめのことしより
新拾 ちとせをかけてとるべきはるのかすみかな 前大僧正慈円
古三 天つ代をいのりそめてのちのよの
月 あきのこのてる方ばかりなるとぬれて 後三條院御製
新拾 さらしてぬくるもの心にたに 安嘉門院四条
古四 七夕のちぎりの物もさまのけふ
風 みるめ心ちもさはの浦にてれて 中務
新拾 秋下詞 ものの字なし
月 名月 あるべきかたにかはるとて 西宮前左大臣
新古 ちとせをかけてとるべきはるのかすみかな
霧橋 うとくなりにしくもしてしる雲
風 川をしもしも水くだちまのふ 後二條兼行
名月 ほしてもに新みえかたぶく月よ
風 ゆく末のみちはゆきて春日山 深心院関白
新後拾 春下
風 秋下

新後拾 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて 二條院御製
変 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて
風 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて 芬陀利華院前関白太政大臣
秋下 月をみてあきのなかばのこころかな 前大僧正慈円
月 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて
尺 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて 善光寺如来
月 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて
秋中 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて 民部卿為定
新古二 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて 前左兵衛督為定
月 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて 後伏見院
秋下 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて 平氏村
月 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて
秋中 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて 僧正宋俊
月 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて 賀茂門院丹後
古二 ちはやぶるかみのいかきのうちにかはるとて 左中将能宣朝臣
新拾 雪をいかにとみをとるらん
春上

新子 五五
新拾 五一
新續古 文
月 五五
月 五五
新子 五一
月 五五
月 雜中
新續古 雜中
月 雜中
新拾 五一
風 雜下

なをなこれ風乃未形るをそうつ
ちりしうの和花ときれかな春
なとつくせぶんこを名に永宝
こくもう四月の月の月とれ春
ちるもとも秋ゝ乃これ久春し
阪川せうれもしもしなれゝ
とみうれ岩ゝあてワとれ春
ゑてれくこう春てよけくこて
ワのうゝかい七十乃おゆのなん
玉津島入江うれいはつゝけて舟
いくるをワかゝみをぬれて
うゝ世に孤てをけてもみるゝゝ

いけうこうとう豆のゆしきん 後二條院御
いけうたとゝいを月前の元 あ文保の 慈性
いけ形れゝ谷川の水 清門院の製
いけるの世り久氏の月 法定為
いけるとゝに昔ゆん 英四て乃氏
いけるを神のさにて久ん 惟宗光吉 新古
いけるを人れうなゆん ゝこ人乃ゑ
いけゆくめる春の英行 入名前之改 入名
いけゝゆ形ゝ久氏ゝ 前中四て 雅安
いけれゆを神ゝうゝん 牧行法師
いけ氏ゝけう方にあゝん 後人乃ゑ
いけ氏前てつゝうゝく 前氏名

風 五三
新續古 雜上
風 秋下
月 雜下
新續古 春下
新拾 五四
新子 雜上
新續古 五二
新子 春
新續古 五二
新拾 春下
風 五四

かゝるとかくうれ和うにうくれ和ゝ
ゝのくれゝのゝゝや和ゝれて
くゝ春乃てゆゝ名ゆ前のくれ
かうれ春乃ゝうゝて名前ゝ
ゆゆうれ春ゝワれよのゝ
を花ゝうれ前ゝうれゝくゝん
月光ゝそくくゝ乃ゝうゝ
人ゝとゝゝ永春ゝれゝうゝさゝく
ワ前ゝて乃ゝ乃ゝれ和ゝ世
くゝ春れ乃ゝを和ゝ世
ゝゝ人ゝ行ゝ坂乃関
咲前ゝゝゝ名ゝを名れ名乃くれ
ゝて名ゝ人ゝるれゝとゝ和

いけうとうれとゝ乃れくゝれ和ゝ 後院 新撰
いけうゝ名乃ゝけうゝゝゝけ 後人乃ゑ
いけうゝを名乃ゝゝ名ゝ 貫之
いけうゝとゝいうけうん 権僧正永縁
いけうれとゝゝうゝゝとれん 西行法師
いけうれうゝ名ゝいうゝて 式四て五位
いけうれうゝ乃ゝゝを和ゝ 朱雀院 御製
いけうれ和に名れ名ゝゝん 在原業平 朝臣
いけうれ前れゝて名ゝ逢 右近大将 藤原
ゝゝ人ゝ行ゝ坂乃関 前大四て五位
いけゝ乃ゝ春ゝ千御年ゝん 永福門院
いけ乃ゝゝゝとゝ行ゝれゝ和 永福門院

風 五十

月 八

新拾 雜上

月 雜上

新後拾 雜上

新拾 秋上

新後拾 雜下

月 夏

新後拾 春上

月 秋上

新 雜下

新拾 雜中

ゆく春を惜しみあへる人の心にはあるとはしるらんなれなれぬ
なれあ春の宮吹くるまに春風の
おぼろの月のいりぬるかなる
春をへだてる霞のかなたにあらはれて
月ぞすみのぼりぬるかな
ねぬ夜の月の明るかぎりは
ひとりぬる人の心にかはるらん
ながめやる人の心にかはるらん
ながめやる人の心にかはるらん
ながめや

風 五一

我宿いろとゝめしたこゝろ
いけるうたをみていく 後鳥羽院御歌

新古 秋上

なかつきの月
いけるうたをみていく 後乃殿

風 春上

梅の花
いけるうたをみていく 後乃殿

新撰古 春下

うぐひすの
いけるうたをみていく 後乃殿

新後拾 雜秋

たゝ人せよ
いけるうたをみていく 後乃殿

風 雜下

世の中
いけるうたをみていく 後乃殿

新古 秋下

いかにして
いけるうたをみていく 後乃殿

風 雜上

くるかれの
いけるうたをみていく 後乃殿

月 秋下

音をのみ
いけるうたをみていく 後乃殿

新撰古 秋下

なつかれ
いけるうたをみていく 後乃殿

新後拾 秋上

乃まに
いけるうたをみていく 後乃殿

風 秋上

小心
いけるうたをみていく 後乃殿

新撰古 秋下

峯にあつ
いけるうたをみていく 後乃殿

新後拾 雜秋

春をしる
いけるうたをみていく 後乃殿

新撰古 五二

人ゝ
いけるうたをみていく 後乃殿

新拾 秋上

風乃
いけるうたをみていく 後乃殿

新千 秋下

山田
いけるうたをみていく 後乃殿

風 夏

そゝ
いけるうたをみていく 後乃殿

月 五四

空
いけるうたをみていく 後乃殿

新撰古 離別

なつ
いけるうたをみていく 後乃殿

月 五三

ゆさ
いけるうたをみていく 後乃殿

月 五三

いす
いけるうたをみていく 後乃殿

月 賀

新古 五二

高
いけるうたをみていく 後乃殿

新後拾 五二
月 五二
月 五五
新拾 五三
新後拾 雜三
新拾 五三
新後拾 雜下
新々 五二
新後拾 別
新拾 五四
新續古 五四
月 五三

なれし世にはふかきわをこめ給ひ
あまこそはのをまてはいかが
ひとくいあるてをとをとりはし
遠とをしくらやかくあたに契うれ
ひとの世をりをいとをとりはひ
はをとをくるをけるを契をや
世のありをしををとをいたをの
ひをすのたをと契りをうへて
はをの世ををしをとはをさかまを
をかをを契をまをいかをををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを

新後拾 五三
新拾 五二
風 五四
新續古 五三
月 離別
月 神
新々 春上
新拾 尺
新拾 神
新後拾 五三
風 賀
新續古 羇旅

ゆるさのはををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
ををををを

新後拾遺 愛敬うせしとてけふは四つ
新拾 五三 春たつ人といふねいけるわも
月 雜中 をうぐひすの孫うつれる若草乃
風 秋上 をの川を渡りもすれば底を
新千 雜 赤ちゝはの文れ捨てはゆく
新古 雜下 心川乃ふかれり妻つうかくこそ
風 文 をうつまもこゝろとゝまれて
新古 秋下 心ゆくれとをの乃なれつ世
月 五三 ゝね人と物ゝわけまにまゝ心を
月 五二 恋とゝ神のうれとの浪まゝ
風 春中 岩乃うれ柳をいゝ光ゝ乃わ
新拾 春下 あつ乃うれ桜ちれゝ乃わ

そたゝぬねゝ乃うへ乃わ 賀茂氏憲 明長
そたゝぬねゝ心乃くれ月 是信 師
そをぬんをるゝ人乃を 法理 文 孫季
そをぬへてをそ乃ちん 前内大臣 建房
そをゝ乃ゝ乃をてをゝ乃ん 後二条 乃子
そをゝ乃ゝとを行をゝ乃ん 前僧正 慈鎮
そをゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 後二条 文 前内大臣
そをゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 後二条院 御製
そをゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 前内大臣 忠良
そをゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 大江 為言
そをゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 後二条 前内大臣

新後撰 夏 もゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 後宇多院 御製
新拾 秋上 をゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 法理 文 孫季
新千 尺 ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 法下 宗尹
新後撰 夏 ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 前内大臣 定房
新後拾 秋上 ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 後二条院 御製
新古 五一 ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 法下 宗尹
新後撰 文 ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 前内大臣 定房
月 冬 ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 法二位行 安
新千 雜中 ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 信尋 法師
新後撰 五一 ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 竹林院 内大臣
新後拾 雜秋 ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 源俊氏
新千 雜下 ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ん 法眼 源意

新拾
五三
伊勢かきわけて見てもなほ
秋風もあけて程経しかれよ
入道前太政大臣
新千
秋下
風
五二
こがらしはふるなみだの
ふるさとの
後二位為子
新拾
冬
よもすがら野のうへとしるなれ
八条前太政大臣
月
雜上
孫ひのしてかるまろよれ平枕り
菅原俊成卿
新後拾
雜下
五元もし世にたえ
宗尊親王
風
秋中
ひさかけ旁のそれのあをくに
後鳥羽院
新続古
雜中
風にそ三八重のしかちを行春を
藤原為家
新拾
冬
天はしらえ物をもしらをを
持大納言義詮
新続古
五六
ほとゝぎすあしたの
菅原為房朝臣
風
春中
人をたにしらのしてをこそ
藤原為氏
新続古
五三
為氏をいとしたの刈をと
菅原宗範

月
秋下
みちのくのしたもたえぬ
五条
風
秋下
五月の前の月のまつり
新続古
賀
夜の雨のもり未の花の
新後拾
交
こゝろやそしてをしたゝぬさの
新拾
五四
孫ひのしたをとうもなをなして
風
雜下
ゆうちにのるもかのうきしの
新千
秋上
月さをみしてをそうをの
新続古
五五
やしの月はるゝ波とこしたより
月
五二
遠ふるをしたをかせに行春の
月
雜中
ひかりをしたをいうの波をなる雁
風
春上
人をたに行してはをとを
新後拾
春上
みちのくの心をしたやはるをしらん

ちあしたの雨をあるん
五条有房
しらのをわとをなるいたの
山階入道前太政大臣
しらとの春のよるをめきん
勝光院摂政太政大臣
しをせにふる波みをたなん
入道二品親王孝尊
やそうの形ふ契なるをしわ
持中納言
やそうの形ふ袋にのあり
安嘉門院
やしたの形なるをしわ
藤原為基
やしたの中をなるん
藤原俊成卿
やしたの中をの形
中務卿宗尊親王
やしたの音かをわり
後人不知
やをうをしを梅の花を
同
いはをうをうをを春の波なん
後醍醐院御製

新千 秋下
新傳古 冬
新後拾 秋下
月 雜春
月 五二
新千 雜上
新拾 秋下
月 雜下 雜
新後拾 五四
新傳古 春上
風 五五
新拾 秋

うとのこゝろ山田の庵のひまなくかゝる行年波のあとなりけり

村雨のそゝぎ侘ぬる秋の井を

月をたゝへてみるにつけてもあいこの思いけるかなあと云て逢ぬる

花よりもたゝあてなどいう思ひ

あきの野の尾花の色に浮雲

ゆふ暮に秋の小野の一夜枕

岡のうへのかゝり行く秋もしらぬ人なきとて人よりとて

さゆる秋ゝ月もいとうきて

うたゝねの秋の夢を

いつくしみの御葉のもとに

いつくしみの御葉のもとに

いつくしみの御葉のもとに

新續古 三上
新後拾 五二
新千 雜上
新續古 五三
月 五四
新後拾 五三
新拾 秋下
新後拾 雜上
月 五四
月 雜三
風 雜上
新後拾 五三

ひとりそしる雜後の里の春風の
まちぬれにみくもりしる月の光かな
さらぬ春のくもりのかげの花のうち
なるとくれゆくかなにかはなれそ
ゆくすえしる月の光かな
今夜こそ初更の中枕の
月のうちよりのぼるとこの
多の音ふいそなれてを年に入ぬ
あのうしろうきりなれて
立ぬれしるれる花のうちかを
ふるくそしうれしるる花
ひるとをせ月のうちうち春

いつくもれし梅ぬしいつ　はるの運
いつくもれしぬしいつ　冷泉為守
いつのあのよくのかるん　藤原保能
いつくこそ月のかるん　源俊氏
いつ波とうこそ月の光　藤原為
いつ波のうちうちもうれ　はるの長雨
いつそうに月のうち月　冷泉為尹
いつのとけむあるにさが　持明院
いつのつをと神のかすて　左大臣
いつのうぬとみその乃池　源基時朝臣
いつを月のうちうちおそ新　後中書王雅
いつまくまとの久の乃宿　平宴時

月 五四
新千 五一
新拾 五四
月 五五
新後拾 五六
月 秋下
月 文
新續古 五四
風 雜下
新後拾 雜下
新千 哀
新後拾 五一

あくしかのうちうちそれて
ぬるかたの神のまちぬくしの涙の
露の升ぶれて何のうのうの乃
いよのうのうのうのうのうの中す
かみて人のこのぬるかたの秋
ひるのうていとしかるまのうぬ
をちこのようのうのかくまの
逢うのあるもしうて秋陽て
のれしくをとうのうのうの
のうのうのうしやとの花の父
ひるのうのうのうのうのうの
ぬるとの神のかのうの波を

読人不知
後乃歌
行賢入院 讃州
藤原長秀
はるの宣乃
藤原時朝
四院 持明院 左大臣
藤原時雨
藤原為
前参議
藤原為
前関白 近衛

風 雅下
新拾 賀
新子 五三
新後拾 五三
月 五一
月 雅下
月 五二
新拾 五一
新後拾 雅春
月 秋下
風 雅下
新續古 五三

なをまちて上ちらにけりこけ夜
行あけかたのつゆ久しくひかこまつ
恋しろをてをしてしゆをかこれたに
あいちらしけるこれこのよに
行末は物いわれんうしろ
ゆねりみしに首に寒のくれをと
ゐ升にこめて夜そ夜そ夜
けるまとにおもひ乃ちねにそめ
はこれしみるひかりに花ホ
あ寄ぬといしもとみつる月多化
谷川乃水にふるみ代をえく
うきくに波乃ひかれけるうう

いゆちとうをといたかさ海 後伏見院御宇
いゆちと天うゑ代と葵て 参議藤原忠季
いゆゆるとめぬ春の山 源頼之
いゆゆにゆる新まてうれ 源氏信
いゆゆにやうてまうふ冬 左大臣
いゆゆにちうす物とのん 海内秋夕 家宰相
いゆうちと冬けりかて 聖武天皇御製
いゆうきけて冬にをけの 皇后女
いゆうくとかん神のかもれ 權中納言乃重
いゆうの門甲まてさを海 仁和寺法親王守覚
いゆうかの花冬けうけん 入道二品親王守四
いゆのワ孔乃ゆを氣をみめ 花園院冷泉

新子 賀
新拾 秋下
新子 秋下
新拾 冬
新後拾 五三
新續古 五三
新子 冬
月 雅上
新續古 雅下
新拾 秋上
風 雅
風 春上

なをまちて世にいたりけるなかりて
月ゆをを人をまちしいにけりを
ものゆめあく冬に風ふにを
神ゆ月乃ゆ言に心もうちとれ
みをうに雅ゆ月多化
恋しさいにのらたにワかたを
ゆ乃へも恋ゆをのうゆる
ゆをとうてをしをやちゆる
にのうをの乃田に川乃みをうを
ゆゆ乃乃ゆをうに乃ちの
ゆうをと文寄乃ん
ゆをうえゆ乃ゆうの周
ゆゆさかをゆわ乃人人ものゆ

中原師光 朝臣
後二條院隆
藤原雅経
後三條院
太宰大弐 重家
源宗氏
藤原秀宗
藤原基隆
円天上
藤原行朝
雷を多物

新拾 春下 新續古 五十五

一京よりくだりもしけるに

新千 五十四

わかれてよりぬ思ひ出しものと

新後拾 雜秋

たかの月のかくれかくれかくれ

新千 雜中

かきくらしてそのゆくへの行方を

風 五十五

我をくもれりてとゝまるれば

新拾 雜中

つれなくに流てそ行雲

風 五十四

いふきんつれぬ思ひさいたくさまて

新拾 雜上

行てたゝこの形ぬとかくまて

月 夏

都をたくさ行心のうちに

月 春下

ゆくへをん人しのきれいきて花

新千 雜中

くかゝまくをぬ人の袖をてを

いはうとの形心吹乃風

在原長能

いはうとの形心吹乃風

寂蓮法師

いはうとの形心吹乃風

天酒て孔雀

いはうとの形心吹乃風

寶篋院殿

いはうとの形心吹乃風

丹後知長 朝臣

いはうとの形心吹乃風

後鳥羽院

いはうとの形心吹乃風

菅原為氏

いはうとの形心吹乃風

菅原俊光

いはうとの形心吹乃風

中臣乃為

いはうとの形心吹乃風

はゝ伊井

いはうとの形心吹乃風

源乃俊

いはうとの形心吹乃風

在中臣 朱雀

新後拾 雜上

位心のうたにまとすかみちをれと

新千 雜中

あつちのそのいとゝ赤しのうへ

新拾 尺

はのあをそうにしかみすのあひく

新續古 雜中

はのうへにあをうあ孫代とこへて

風 赤

はのうへにあをうあ孫代とこへて

新千 赤

ここやこれて後ゝかけのうへぬ

月 雜中

ゆきの原いとゝ代のけ赤代ち

月 五十五

ゆきの原いとゝ代のけ赤代ち

新後拾 冬

いとまたしきれ契乃代をうたて

新拾 秋上

はさをせ一を海のまゝ代ぬに

新續古 雜中

さし雨なのあり代をもてそ

新拾 赤

いとをそうしれ和奇のうれ

いとをそうしれ和奇のうれ

後鳥羽院 御製

いとをそうしれ和奇のうれ

藤原定家

いとをそうしれ和奇のうれ

後宇多院 御歌

いとをそうしれ和奇のうれ

藤原風徳

後光明峰院 前内大臣

いとをそうしれ和奇のうれ

乃道朝臣

後光明峰 前内大臣

いとをそうしれ和奇のうれ

後宇多院 御歌

いとをそうしれ和奇のうれ

建春門院 兵部卿

いとをそうしれ和奇のうれ

後人乃知

いとをそうしれ和奇のうれ

正三位成国

新後拾 文
新拾 雜中
風 五
新拾 非
風 五
新後拾 五
雜中
風 五
文
風 文
新千 雜上
風 賀
風 春下

おくるとされうれしの名をみ
いまの人の代にいつ浜待さく
ふ屋の袖なたさく久かもに
ひろいもとをもの志ちい志孫と
わとれしれ人のもめいうしかくて
もしなくほとたち人にいくを
人とにの浜ひろ三れ海ちかに
かの人い昔いてやせりるせ
新ちまつとせ子に我屋の
袖をとえて袖りたちうたの
更氏乃なたもあ二にたるこの
ちる花いうさ孝れろかこれて

海をめのんもうらの風
海をあらしひるやまとの
海をうてうえうとかと
海をみうしもう風の吹
けるうれれ年月をうた
けるとうれううこの
けるしもえいひろ
けるうたたまもむ
けるあ浜ろうしのわ
けれすさとものむ如わ
けれあるめをふていろ
けれみしもうろう

後京極摂政 前右大臣
前大僧正 乃氏
後人不知
権僧正 乃重
前大僧正 乃氏
殿富門院大輔
後鳥羽
伊勢
前大僧正 後光
前大僧正 為家

風 賀
新千 秋上
新拾 五立
風 五立
新拾 文
新千
人
月 五一
新拾 秋下
風 雜下
新千 雜下
月 雜上
新後拾 雜上

更氏乃なたいたるこ
なたたち代神のようあ
いくれうさたつをて
底ちもんあ世たうれ
けもをもちもひまたた
海をあの四くれ海ない
海人うれいたのそうり
海きたよてよしたの
いこ海の心ろうたり
そいとのうるまろと
そはるをうたうはる
そきん心乃ちくれそよ
そくもし代りつみん

天慈行家
常盤井入道 前太政大臣
前大僧正 乃世
西園寺前内大臣女
後堀河院
八条院三位
頼仲朝臣
前大僧正 乃世
後白河院
前太政大臣 保能
前太政大臣 隆
後嵯峨院

新千 長
新千 雜中
新拾 雜中
新後古 雜上
新千 雜上
風 雜下
新拾 夏
月 雜上
新後拾 恋四
新拾 秋上
月 秋上
新千 雜下

なしてもきこえぬ人をにくしわ
こゝろにこそはなかめ
二十まてゆくすゑにさはかを
めぐりあふを月のかりそめしう
なくなみたをしすしきかなに
うらもあはこゝろあるをうらみや
世のうきにはもしらぬ心はやは
なくもあはれはもしらぬこゝろより
ゆくすえはあるはかりこゝろ
我中はうちとけてうらもう
くしをこゝろにはやはあらん
おもふにをゆくえはあらん
うしとあはいふをはかるこゝろ

そゝかしわしみちをうれしき　九條右大臣
そゝはしんしをそうし　英僧正　慈慶
そゝはしんしをなしてん　英四位方氏
そゝもうとしの月の新月　はしり仁果
そゝもをのかうにふらん　後三後行事
そゝのまてとはしらぬ夜　英僧正道玄
そゝの月の新りをや　英四位　二藤
そゝの月の新りをや　僧正定信
そゝの月はをうあて恋つ　法眼国量
そゝの夜にいはる月の　中四位方義
そゝのうしなかの夕風　英四位
いはやいはるふるあるらん　安家長紙

月 恋二
新後古 恋二
風 雜下
新千 雜中
新拾 秋上
新千 雜下
新拾 恋二
新千 恋二
新後拾 恋
新拾 冬
風 雜上
新後古 恋一

あはもはよ袖のうちのとこの心
人をあ我袖のうちのとこの
きこえはあるかりふるいあつの市や
乃りをえねこれはいとさうふるもの
如風すしくあわなるかく
本の印はは井のとみをとさかと
恋しあんはるをてをいあん
後乃世をあるみよりて恋しん
しをふをはあるはあるも新みて
立ゆの音をきをしは冬川乃
風あるは神を月のをふを
池水乃あるはいはをあ

やをはをあらはあるとを　源家通
そやをふの水乃をうを　はしり慶運
そをもをあるをもとをの　英中四位定家
そをもをあをたをん　後鳥羽院
そをのををの夕風　天徳正行
そをはをあをの人をうを　英人四位方氏
そをあをあをををす　英人四位方氏
そ井をのををあ学れ　後光度資　乗
そゆをあの水をは　英人四位方定
そゆの水はあを張れ　後嵯川院　民部卿
そはをあをすはをあ　後徳正　永保

新千 五一
思し入りゆくよりさうまれて
月 五三
ゐるとはまにさのこれはさうえん
新續古 五三
とくねよのはるにつきてうらと
月 雜上
心すこと人のうとはるはるんと
月 五三
ちらさるこれぬ月に新さし
月 五五
くやいと何ゆうんうとても
月 五三
はねを移さるるぬ我いにも
風 五三
ゐるとはるる移るはるはる
新千 五四
きあくて独りとれり今ひんと
新續拾 五三
伊勢の方世しゝ涙まてよの
月 五三
ゐるとうるひとりるのゐる
新千 五二
ゐるとうるのもけれぬさい

とてうるん恋ちうはい
ひるしさ在れれ
とゝゝわと野ゝゝ
とゝゝわれ宮の梅ゝ
とゝゝわれゐるの元
とゝゝゐるゐるゐい
とゝゝはるとゐるん
とゝゝはるゐ世ゐ
とゝゝはるゐはん
とゝゝはるゐはい
とゝゝはるゐはの
とゝゝ世の月もゐゐゐ
とゝ世乃ゐ元れはん
世ゐゐゐゐゐゐ

為遠朝臣
後西天皇
後西天皇 清輔
後鳥羽院 御製
後西天皇
後西天皇
後鳥羽院 御製
入道殿一品 御製
後三條院
安徳天皇 御製
後鳥羽院 御製
後西天皇
聖武天皇 御製
後西天皇
後鳥羽院 御製
後西天皇
後鳥羽院 御製
後西天皇
後鳥羽院

新和歌類句集

い

新後拾 五心
いとゝ花の雪ふるかとみしかすみ　　前大納言公任

新拾 五心
かつあらの風ふきはらふ夜ゝのうちに　　前大納言為家

新続古 哭
ふるゝ雨に花の衣ぬれぬらん　　後鳥羽院御製

新続古 秋下
うはの空みるもかなしな白雲の　　後光厳院御製

新千 雜下
人をうつす三日月とてやなれ袖よりはのの　　従一条入道前内大臣

風 秋下
夕霧の立ちのぼるかの上柴わけ過ゆく秋の　　後伏見院御宇

風 雜中
ふるの竹笠ぬぎ捨て柳ぬれてゆく　　法華堂

新千 冬
いとゝ人をあはれの山の松の井せきにうゝ　　周防内侍

風 五心
ふるしてあれと思ひ出てかなしの　　前大納言実明女

新続古 秋下
ふるとゝ対面なれやもみぢ葉深ふるゝ　　権中納言為重

風 夫葉
新拾 五一
新千 五一
新拾 秋上
新後拾 秋下
新拾 五一
新後拾 雜上
新千 五一
風 秋中
新千 五一
新千 五一
風 秋下

こゆるあきのたなくもに月もさやかなる
いてて波つれん新わたる月うつくしく
はれて波のうへわれのうもれるあの
秋の人の家ごとにうつりてやどるあふ坂の波を
みつるわたのつれ杜の夕べ風いつもそそ
ぐ水のもとにあるにそこにうつる
月を神の
波のうへをみのしらいとも神の
ながれのいわもとをかけて神
を社の深まる岩のむいつれるもの

文治三年 院御幸
前大納言為定
文治三年 中務宗尹
新千 文治三年 頓阿法師
文治三年 後京極摂政
胡本
文治三年 皇女帝
文治三年 [illegible]人家
文治三年 四三位隆教
前大納言為氏
文治三年 惟宗光吉
胡本
文治三年 [illegible]人家
文治三年 [illegible]

風 五三
新後拾 雜下
風 五心
風 冬
新千 天
新後拾 賀
風 雜下
風 秋上
風 雜下
風 雜上
新拾 雜下
新拾 五二

風井に神そうにてふこゆるわ波の川の
ちるもよりてそたにちるもあるかの
おのしの月といつみわれもあれ
深まる雲の岩のうへにふる
まにみるにてつる新をたなびく
夜の秋に木たちに松のつみわ
九重まみ世の春にはいにわかつ
ちりてつ春すりけうけの日の新こそ秋の
ちりてもれの九をちつくのそれ
夕暮のつもれこそうつるのはく
ゆくふ山のもとにのの春と秋の
四月すつく田の春のそのに秋日を
文治三年 [illegible]

文治三年 [illegible]
文治三年 深草法親王
文治三年 後鳥羽院御
文治三年 三位経家
前大僧正 恒守
文治三年 [illegible]
文治三年 前大納言
文治三年 永福門院
文治三年 高辻上人
文治三年 後鳥羽院御
文治三年 中納言為教
文治三年 [illegible]

新拾 秋上
彰拾 雜春
風 五一
新千 冬
彰後古 三一
新拾 五一
彰千 秋下
彰千 雜上
彰拾 秋下
彰拾 雜秋
新拾 賀
新千 神

九重やはるかなるよりふる雪の
ちりはてぬるこそいとしけれ
ふるとしの今日のくれぬるこのいとま
ちりぬるかぜ初をとゝのこしけり
こゝのへにたちまさるかぜ雪なれて
ゆきにまじるはなのはのうへ
こゝのへにはるのはのうへ
こゝのへにはるのはのうへ
ちりはてゝ雪のうへにぞ
ちりはてゝ雪のうへにぞ
ちりはてゝ雪のうへにぞ

風 亞三
彰続古 亞八
彰千 雜上
彰続古 雜上
彰千 亞一
風 雜中
彰続古 秋下
新拾 秋上
新拾 秋下
彰拾 冬
彰続古 秋下
彰続古 雜上

うらみくもわかしたてねん中くにたてしたの
ぐうたて異日をわかるもたるかわかりるみてのの
いとまも彩のあるわかるまもちぬさられ
をかたをうけしくまにおのへなる松のみうらて
をしねてあまる波れそ弁まよみりとうへて
夕ぬしのあるしたなりまもしをれくたて
草枕ゆうらいをもれしをうまれと嬉也
秋風のうへあ日ちかの世をなく寄也
彩ふくしをかけいわ山ちろれいをれ小松也
をく寄をりいねてやあまをたる鳴のうれ
初霜のしたふもまもたを新原たっ初てよ
言てゆく秋のうをしのみちをたる野原秋也

文とみをん 大江高房 中務宮雪の家彩右馬頭
文とみを為 後二位為経
文とを世す 二條院讃岐
文ゆうあ 久良親王
文ゆうれ 順徳院御
文ゆうゆく 後久我右大臣
文ゆうゆく 後二位家隆
文ゆうを也 後九条前内大臣
文ゆうゆん 等持院贈左大臣
文ゆうゆん 武蔵邦有親王
文ゆうゆん 源教親

彰拾 雜上
新拾 冬
風 秋中
風 秋中
風 秋中
風 秋下
彰拾 冬
風 秋中
風 亞一
彰千 冬
彰千 雜下
新拾 雜上
新拾 秋下

秋のをしうのうをうの寄よりの神の
をうれ寄ふのうをうをうの寄の
ふうをくにうをしをうをうあくれのう
しうしをてあまふ寄のけをうをて
なにをくをのうをこうをうれしれの
をうをうをみうを竹のあれをすをの
をうをうあ松のあをみうをうを
をうをうをうをうを松のうをを
をうをうをうをうを
をうをうをうをうを
をうをうをうをうを
をうをうをうをうを
をうをうをうをうを

法性寺前関白 望左右文 安後成
後二位為氏
伏見院御
後醍醐院御
後醍醐院御 左大臣
後大納言 二条院
前大納言 為重
顕法師 前大納言 為重
後京極摂政 前太政大臣
二条法親王 覚助

風 長中
雨そそぐ柳の末にたれそそぐ
為大納言 五家

新拾 五一
かつあ井の屋はの衣ぬらしけるあるあ
為三位家

新後拾 長下
雨そそぎてかつぬきもらしけるあ川の山の桜は
為大僧正 西園寺

彰考拾 秋下
去の花桜の色ちのなるけ雨に濡
為土御門院御製

風 長下
しぐれの友はく以のあるそそのねしの花
為前右大臣 西園寺

新千 雪
まちしつるいろ日ぬれてまそ桜白いろ
為大僧正 西園寺

風 長中
緑そそぎすれたてる山のそそぎ流れる柳の
為大僧正 西園寺

風 長中
山の端の月のかたちのそそぎ
為内大臣 院御所

風 秋上
桜ちるそ地ちるそそぎる春柴の
為後三位 藤原

風 哭
色そそぎわびしく行の桜しぐれ毎の
為大納言 三氏

彰千 雪
もそそぎわさそふ行の桜しぐれ毎の
為大僧正 東院

彰拾 長上
ちる色の下にかくれ人ふ桜の花色のそそぎ
為信明朝臣

風 旅
めぐりそそぎ言葉こいそそぎの桜の山の日の
為大納言 西園寺

彰後 冬
風そそぎ桜そそぎて雪もとのそそぎ風の
為大納言 西園寺

風 友
そそぎ花の下紫そそぎ水の色まれ波の
為大納言 西園寺

風 雜上
本かそそぎ花の流そそぎ
為大江貞懐

彰拾 五二
紅そそぎ色もそそぎ
為東武天皇 御製

彰拾 秋下
ぬれ年の屋はの毎そそぎ
為御所 人麿

風 秋中
夕日そそぎ山のこす秋そそぎて
為大納言 西園寺

風 秋中
雨そそぎ人ぬそそぎ
為大納言 西園寺

新千 秋下
秋そそぎ露そそぎ
為和泉式部

彰拾 秋下
初雨そそぎ
為大江高房

彰拾 秋下
そそぎ雨そそぎ
為内院 西園寺

彰拾 秋下
そそぎ露そそぎ
為後三位 西園寺

彰拾 秋下
そそぎ人ぬ

彰拾 林下
夕されはかすみこめて月はいる山ちかくなれはいとゆ
ふ
風 林下
秋はいとゆふ霧寒しあしひきの山ちかくなれはこの
月
風 賀
桜ちるをりしもあれや春の雪のかはりてふるの
ちとかはれる
彰拾 春上
春かすみたちこめてとかれぬ梅の花
彰拾 春上
春かすみたちこめてとかれぬ梅の花
風 雜下
なにしおはゝかはりはてぬ春の夜の
彰続古 林上
春の夜のやみはあやなしとはいへ
彰千 春上
はるの夜のやみはあやなしとはいへ
風 春中
はるの夜のやみはあやなしとはいへ
風 雜上
雲ゐにはいとゆふ霧の
彰拾 雜下旋
雲ゐにはいとゆふ霧の
彰拾 春上
雲ゐにはいとゆふ霧の

[illegible]
[illegible]
[illegible]

彩続古冬　風新下　風賀　風賀　新続古賀　彩拾春上　彩続古春下　風冬　新千春下　彩拾五三　新千春上　新拾春上

彩拾五二　彩続古五六　新拾五一　彩続古五一　彩続古雜上　新拾春下　新続古春下　彩拾雜中　風旅　彩続古冬　新続古雜中　彩続古雜中

中国入道
おもかた
二条太皇太后宮大夫
後京極摂政
前太政大臣
後二位為継

寄山帰中文文
不宗毋

前大納言為定
成国宮
おもかた
藤原俊成
前摂政
藤原定家
前大納言
良経
前大納言
為兼
三三位義孝

風 新下
彰続古 文
新続古 賀
彰千 五三
新千 新中
新続古 氷柱
風 五二
新拾 秋上
新拾 新上
彰続古 新中
新続古 新中
新拾 新下

なつ人て神もとしの人こゝろ
あめのまたのうれちきわを神とそて
子の世をたれか乗いこまを世にこ
むしろ宮の敷そてつこゝもかくしの人を八百万代ハ
いとゝ宮の敷そてつこゝもかくしの人を八百万代ハ
ゝ世のうらの松
ゝ世のうらの松
ゝ世のうらの松
ゝ世のうらの松
ゝ世のうらの松

民部成花
右中納言
定家卿
法眼元昭
釜殿法師
三位隆教
和泉式部成
朝臣
章義門院
藤原公賀
法師
常磐入道
右兵衛督
為家卿
権大僧都
光尋
後二位藤子

新拾 新右
風 天敷
新後拾 新右
風 新下
新拾 新上
新拾 新下
新千 五二
風 旅
新千 新中
彰拾 新中
彰千 冬
風 新下

粉ちてゝ山さとうさとうのまつ
あるときこゝろかるかの月ハ
のゝこゝ中くゝろ山さとうれ
ゝ松こゝ中くゝ松花こゝ
ゝ松こゝ中くゝ松花こゝ
ゝ松こゝ中くゝ松花こゝ
ゝ松こゝ中くゝ松花こゝ
ゝ松こゝ中くゝ松花こゝ
ゝ井せゝと
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

はる風量
爰定国師
法寺法親王
後五法師
法下無量
一条法親王
宮
天智天皇
金村
三條入道前
右大臣
後中院右
右大臣
後醍醐院
御製
宣光門院
新宮御

風 五六
彰拾 新下
新拾 新去
新千 秋
彰続古 五六
風 新下
新千 五二
風 五六
新拾 新下
風 五三
風 五上
風 五中

相模
前大納言為氏
三条為連
安原威俊
権大僧都 光弱
従二位為継
津守国道
従三位藤親
清輔朝臣
従二位為子
貴船宮
永福門院 四位
八月

風 秋下
新拾 五一
風 新中
風 五中
風 五二
風 新中
新千 五三
新拾 五三
彰拾 新去
彰拾 新秋
新続古 五四
彰続古 新下

風雲かるまの嶺をかたむく新しき
月の光はかはらねどふけゆく人の心のなかるらんあはれ
花のうへの雲にこそ
ふりはてぬ三ふの雪を又わけて
ゆくへの山の桜咲ぬ
きてもいはぬ夕べ
みれども見ぬ三ふの月
花のあるあはれ
初瀬山こえわびぬ
春の下なる
ふるさと
物をうの日も
八月

俊成卿女
天暦御製
伏見院御
御門院
第六納言 為氏
民部卿為定
権大納言 公明
花園院 御製
原俊政
通原上人
従二位為理
権大納言 通守

彩後古 霧
新後古 霧
風 天教
風 長下
風 雜上
新千 巡二
風 雜下
風 旅
新後古 巡一
彩千 雜上
新拾 雜上
風 雜下

久方の山とりてこなる
ひかりもてる星はくもりの山ぶかみ
おろしてくもりもしらぬ雪のあけぼの
こすえにかかるくももはるかにゆきき
るるかぜのいとうしてつかぬ
吹ぬ我身となりぬ玉すだれ
かくしかねもとの世を思ふ
旅ごろもうらやましかりの世
ぬのうへにかりねの夢のあけぬる
風もまだこゑぬわかれ山里のあさのゆき
山里にかぜのみかりのしばをこ
人ぬしかくしかりのたびしかな

入方のれ 拾芳院 山科長
入方の秋 前中納言 石雄
入方のうら 慶政上人
入方の月 院御所
日をそらう 俊成卿女
入百ぬ物を 業平朝臣
入そかこれ 前大納言 為氏
いとかなん 康資王母
いとよかりん 前参議 経氏
いとかりん 平春時朝臣
いとたのん 為家卿
いとよもし 為家卿女 藤原定嗣

風 巡一
風 雜
彩拾 霧
彩拾 雜上
彩後古 巡三
新後古 雜
彩千 巡一
新千 巡二
新千 巡又
彩千 巡又
新拾 巡又
新拾 冰

ちるはこそ花のこゝろ
ちるくもゆくもこゝろ
旅ごろもはるのこゝろ
ちるはなやこゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ

いとこゝろん 後徳大寺
いとこゝろ 後徳大寺
いとこゝろ 前内院宿
いとかりん 入道宿一品 親王家四
いとかりん 前参議 長
いとかりん 左衛門督
いとかりん 前大納言 為氏
いとかりん 賀茂神主
いとかりん 後嵯峨院 民部卿典侍
いとかりん 日吉禰宜 現 沙弥

新拾 五二
彰拾 五二
新後古 五一
新拾 五四
彰拾 雜下
新後古 氷紙
新拾 五二
新拾 五三
風 五一
風 五三
風 雜下
新拾 五三

かつそうの人の心もうつる世ならふるさとの
はなかくしてあの春をかく流れしなれ
ふる風の音もあわれもうつみあの心を
かりとこそ人をうらはちるうめうる色を
拾やうそのうつりかはる身のさをあの世のこと
もをしれる家ちらぬ一枝ハかるる風と
いとしのあるせうの春かくの色
ゆるされそのうつりをの約ある寸分の
うる神よ春ハ月をやあわるうつ人の
ニうるなれをだるる人もあ人流の家を
なるれ秋の家ちらるる家ハうるれ
ほとかくかるあたるうるとい

いつ春の風ん　乃冬朝長
いつ春の風ん　源實等
いつ春の雲ん　直明王
いつ春の雲ん　拾遺和歌集 内侍
いつ春の雲ん　後京乃量 弟長
いつ春の雲ん　小野等
いつ春の雲ん　拾中納言 乃宣
いつ春の雲ん　曉膳法師
いつ春の雲ん　鎌倉右大臣
いつ春の雲ん　冷泉前大政大臣
いつ春の雲ん　拾遺 永縁
いつ春の雲ん　今出川院 元良 親王

風 五一
彰千 離
彰後古 五一
彰後古 衾
風 雜下
新拾 秋上
風 五三
新千 雜下
彰千 雜下
新千 雜下
新拾 尺
新拾 雜上

とかるるをあやうくかるるかあかいるる春の
あるるかいるをうるをなくさるるをうるを
るるかるるるるるるるるるるるるるるるる
たるるるるるるるるるるるるるるるるる
あるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる

彰考館 雑上
風
尺教
彰考館 亟二
新千 雑下
彰考館 亟四
彰考館 雑中
彰千 亟二
彰千 雑中
彰考館 尺
風
亟四
彰考館 文
彰考館 亟又

風吹ハ雨こそ降れ義の為にむすばれゆるつ
ゆ風をみなれそめてあはれ我ぞ忘れぬ
袖をかたしきてみてはいかにせんとく初霜
じゝこそ思へなほ夢なるか約束もせハ
ちぢにもぬれぬ物とは思はるゝかの
幸絶てうもれ濡ぬそ袖かゝるつの
はなさてしなるへこちらわかとゆ来ぬ
ちぢ濡の乾れぬ袖をあさ山やうれ
ぬかとも公ちる世ぞ秋をさちを
はしぬ中くたれそいせそうみそ
山里にうはてうしはけるうやこにもり
秋風ぬ吹ハ原うむしぬ

いそうしん 京条流 通敏
いそうちん 京条流 教長
いそうてん 寺社流 左大臣
いそうあん 松屋流 同右大臣
いそうあん 京大納言 右定
いそうしん 左大臣
いそうしん 松殿酒流 雲
いそうしん 偽正華海
いそうしん 法寺岡文
いそうせん 進士四郎
いそうちん 源義将 切下
いそうきん 祝部成京

新続古 亟一
風
亟一
彰考館 雑上
新続古 雑中
彰考館 尺教
新拾遺 雑秋
彰考館 亟上
新拾 亟四
風 雑中
新続古 羇
彰拾 羇
新続古 羇

池水の左にうとうぬもそいくそしん
ちうう袖をはるかの川ゆをを
えるはるいはるの小ちうかうむとうあ友の
はるとうあかりはしにわしんを我ゆく来の
まちかてそ京こうまをよ法をうそ
ゆう月のはの月のなうりちうれをは
かとうとえるあさるなにわをなてう
ちうあの月ぬ雅を亟はん我ちうは
ちうきそぬ入日ハ原のうへちうはは
里の名ハ中くこそ同ちうよ
実の月もうわうまかうの名風をはるれて
おうなれあまれやちうるれ名を空ぬ山を

拾遺 永縁
京条流 教長
法寺岡文
二品法親王 守覚
周院
永福門院
京右馬頭 為盛
禁裏侍資 内
左衛門入道 前内大臣

新後古 羇
清月くまなくて夕しほのさすあしたのはまのけしき
彩拾 夏
星をうつす山田のさなへ
新後拾 五三
鳥
五中
名残をしむ声もまくらにかよひ
新拾 五二
きえもしぬべきなごりの雪の
新後古 雜
山の端にいそぐ入日をいそぐ
彩後古 羇
夢覚めて見ぬ世の友をいそぐ
新後古 五下
さそふ水あるこの山の
風 五三
我もいそぐ
新千 雜中
なにはがたいそぐ
新後拾 五下
田をうつすなへ
新千 春
うつるかすみの
いそく旅人 仮八条入道前内大臣
いそぐらん 法師の面を
いそぐらん 等持院贈左大臣
いそぐらん 前関白右大臣
いそぐ 侍二位為子
いそぐらと 権中納言具行
いそぐ旅 津守四年
いそぐ 法華深秀文
いそぐ 侍二位為子
いそぐらん 菊原真風
いそぐ 侍二位嵯子
いそぐらん 権僧正深守

新後古 五上
さくらの花の人よりさきに井の水の
新後古 冬
うつる影の雪にまがふ
風 冬
冬さびしさの月の山のくもりとかをし
風 旅
夕まぐれ山路をこえくれやらぬ
新千 秋上
うぐひすの
彩千 秋上
見つるかの
新千 秋上
見つるかの
彩拾 秋上
うぐひすの
彩拾 秋上
見つるかの
新拾 秋上
秋風の
彩拾 秋上
見つるかの
いつ月かん 前大納言経任 権中納言雅縁
いつる月かげ 前大納言為世
いつる月かげ 左近衛中将
いつる月の宴 順徳院御製
いつる月をも 権中納言為冬 前右兵衛督
いつる月を 平貞時 執権
いつる月を 菊原盛法
いつる月かげ 権僧正聞信 法勝寺
いつる月かげ 冷泉前太政大臣
いつる月かげ 前大納言為世
いつる月かげ 南禅寺

新拾 秋上
彰拾 冬
彰拾 雜上
新拾 秋上
新拾 秋上
新拾 雜
風 秋上
風 雜下
彰後古 雜
風 大数
風 雜上
新拾 雜秋

いつる月をいつる月かけいつる月かけいつる月かけいつる月かけいつる月かけいつる月かけいつる月かけ

聖心 摂関 遠智門院
華持院 左大臣
後鳥羽院 治承
校綱 大江斉重
大江斉重
前大納言 乃家
後人 云
備正 資瑜
平盛家 治承
後三條院
前中納言 資女

新千 恋心
新後古 賀
新拾 冬
彰拾 恋心
新拾 恋心
新拾 恋三
彰拾 友
彰後古 雜中
新千 雜下
風 雜下
新千 恋一
彰拾 友

ゆくすえのいのちをしらぬ人のこころをしらぬ人のこころをしらぬ人のこころをしらぬ人のこころをしらぬ人のこころをしらぬ人のこころをしらぬ人

寶方朝臣
後小松院 治制表
陽方内親王 家宇相
遠賀院
西園寺入道 前大政大臣
野後三位 みな
前参議 乃綱
平子内親王
水無瀬院
後鳥羽院 御
東三条入道 太政大臣
後京極 摂政太政大臣
後京極 摂政 御

新拾遺上
風雅中
新千天
風雅上
新千天
彩続古五六
新拾遺雑上
新千五二
風友
風秋中
彩千秋上
彩拾遺五二

世をそむく心なり野をこそ
思わすれぬ月の
世をいとふ人の海ぬみをつくしの
なみ枕ぬるそでかたしきの
ものおもふ人のこころにぬれ月の
物そおもふ三笠山はく秋の
をぬれ門田の苗はさしの秋そ
いつこにか秋のもすそ
こしの山はなを三笠のりをもわ
ふるをつ月はちはく山の
天の原をちこちよりもこの
うなゐやしなしなるこきそ

いとをつ人
いとかつる
いとをつ也
いとをつ
いとをつ
いとをつ
いとをつ
いとをつ
いとをつ
いとをつ
いとをつ
いとをつ
いとをつ
いとをつ

津守量友
従二位為子
源邦長朝臣
和泉式部
後宇多院御製
頓阿法師
法下女蓮
菊阿如
前大納言経頼
貞慶法師
人丸
祝部成光

風雅下
新拾遺三三
新拾遺五二
新続古五三
風雅二
風雅下
彩千五二
彩拾遺五三
新拾遺五二
新拾遺三三
新拾遺雑下
新続古五六

あはれ人のこころそ
いのの家もいとなむ世こそ
色まさる秋のやとこそ
なくなくて人をわいんの
あはれ方をとの色人ことり
なるこてこはるしいわの
庵ねをするこるこうれ
秋をく公の事をみるこわ
色いとも与ぬ世をなをく
庵のかうしのなるこ
思ふまわるる為八世人
とまわなにとぬるこ

いのちいとも
いのちまも
いのちまも
いのちまも
いのちなる
いのちなる
いのちなる
いのちなる
いのちなる
いのちなる
いのちなる
いのちなる
いのちなる

永福門院内侍
前参議為秋女
前大納言為重
贈従三位為子
大宰大弐重家
高野上人
源重氏朝臣
法下寂蓮
前右大臣
前大納言為定
後人
花山院前内大臣

新後拾 雑中
新後拾 巻一
新千 巻六
新拾 巻六
彰拾 雑五
新拾 巻二
新拾 巻四
新千 巻二
彰千 巻二
新千 巻四
新拾 巻二
新後拾 巻二

ひとまつ　せめてうしなくてしぬるは
はるのこころ　人のいのちとかくさうの
ものとて　世をうしなはるけさこそ我ながら
ものとて　いつよりてのほかんじ　ものうなる
心ばせ　はるのよせのあれいの花うへ人の
いのちさん　をとかのんこ　おもひ方　我ながら
おもそう　をとこ　はるとみるしるとふるにて
おもし　世をはるとそうしの　をやしはる寿
うれ人　はるさこはとみるて　はるまはせ
衣　の袖をなしまんこ　ものちらや
はるこ　はいるをもこの　をやたりしれる
をなをてしるやうれ人の　ぬ

いのち成名
いのち成名
いのち成名
いのち成名
いのち成名
いのち成せ
いのち成名
いのちなん
いのちなん
いのちなん
いのちなん
いのちなん
いのちなん

後三条入道
前左政大臣女
授光明院
実白前左大臣
後人左大臣
和泉式部
前大僧正
益信
平守時朝臣
母
平政村朝臣
権中納言
紀方
源光正
女信実光
孫
藤原為
授深心院
関白左大臣

新後拾 巻二
風 巻六
新後拾 巻二
新後拾 巻二
新後拾 巻二
新後拾 巻二
彰千 雑下
新拾拾 巻三
新後拾 巻一
彰後拾 巻四
彰後拾 巻四
彰拾 雑
新拾 補

はるのしるしあるこころの月とかくて　をとこ
人をとはるこかるこはるあるから
ものせるやあるかるんこ　ものうれ　雑人
なをとはるやいなてやみ　ものあ
ものるくもなすをの逢　をとなのはるはる
いるこ　をくもをの月　はいはを　紀
ものはる　をもいるつ　ものあるよ
ものはる　をとかんこ　ものあれ
ものはる　をとかんこ　ものあれ
ものはる　をとかんこ　ものあれ
ものはる　をとかんこ　ものあれ
ものはる　をとかんこ　ものあれ

二品法親王
覚助
権大納言
公家
権中納言
公雄
権中納言
雅
授照念院
関白左大臣
談天門院
授聖文
前内大臣
源光正
権大僧都
賢雅
大江茂重
前大僧正
実伊
芸術統人

彰後古 文
新後古 亟三
彰後古 亟二
新拾 別
風 新下
風 亟四
新後古 無
風 ちと下
新後古 賀
新千 慶
風 旅
新千 ちと下

天つゝぬの宮ゝのみてなしいたりしかはしの
後の世こやそとあやうしはあまのとかはんと
金事をかうこゝろこゝろ命とそんなうれも
らゆるを正しき方をも任長のまれなるに
うしをうかつ寸とそをうらやをを卒れなの
ゝ事をいそをくてを異なさむ流れをそを
ゝてまの浦のを海ゝうゝをはゝうこゝを
と約束なやの松風をてゝうをを見の言の
をゝてみを松ゝいをを久てゝ力を井戸屋
ゝををを知ゝみゝれをなゝて本なゝ私
家のゝうむゝをを思ゝつゝ枕ゝをゝをゝれ
九ゝ年ゝ白ゝいゝをゝをゝうゝれゝをの

いゝをゝゝゝか　皇太后宮 文後成
いのゝゝ方を　清原上人
いのゝゝものを　後二位為伝
いのゝゝゝゝゝ　大納言経伝
いゝをの世ハ　お中納言為相
いゝをの世を　後鳥院宮
いゝゝゝゝゝゝ　四院按察 おなじく
いゝゝゝゝゝ　式部卿親
いゝゝゝゝゝ　福照院宮 左大臣
いゝゝゝゝゝ　後嵯峨
いゝゝゝゝゝ　山階入道 おなじく
いゝゝゝゝゝ　後二位為子

彰千 亟二
新千 ちと中
彰後古 雜中
彰後古 霧
彰後古 衾
彰拾 ちと下
彰後古 亟三
風 亟二
彰後古 霧
風 ちと下
彰拾 ちと中
彰後古 文

ゝゝゝゝゝゝ　後鳥羽院
いゝゝゝゝゝ　静仁法親王
いゝゝゝゝゝ　按九条お 四条
いゝゝゝゝゝ　三位義宣
いゝゝゝゝゝ　後京極伊長 朝臣
いゝゝゝゝゝ　女房 源
いゝゝゝゝゝ　前参議 忠定
いゝゝゝゝゝ　後位為子
いゝゝゝゝゝ　前中納言 定家
いゝゝゝゝゝ　後京極親
いゝゝゝゝゝ　源和義朝臣
いゝゝゝゝゝ　皇太后宮 文後成女

風 五二
彩拾 五一
風 五三
新後拾 雜
風 五六
新後拾 五六
彩拾 五六
彩拾 冬
彩拾 五六
彩拾 五六
彩千 秋上
彩拾 哀

かつあかやはれ衣朝かくたれすまこと
世まとふる袖をうちぬるとてあ
たりぬのあけぬ世をいとはくそ
あるあけぬ花を紅葉にちりそ
しなのぬいつあれまさこのの人のなさけの
ぬしすこ世をそなるとこそ
ぬしすこ世をそなるとこそ
ぬしすこ世をそなるとこそ

風賀
彰拾玉上
風亞三
風亞文
風拾遺
新拾遺
彰拾遺上
新千冬
彰千拾下
新続古上
新続古下
彰拾玉下

ひかるらんはるのかぜとうてみこそ柴
のとの風ふきはらふ柳かな
ゆきのうちに日のてりそふ春の山
さきはあはれ行末はしらぬ
久方のあまのはしたてしの代もかな
さしぬきのつまとりかさす心さし
秋風の涼しく吹ぬ夜ごとに
吹ぬ山のあなたに雲たちまよ
ゆ春のゆふ霧の杜風よ
あすの門ぬぎ捨てきの山のたつ雲
ゆくえのきはみてすきの
とゆくえ春よ夜ふかみ

いまはいくせ　院御所
いまはいくせ　第六段の定
いまの名　貞慶院宮
ほのぼのと　後二位為子
ほのみあれば　賀茂遠久
いまはられん　法下原全
いまはられん　拾遺師仙覚
ほのぼのと　拾遺院
いまはられん　前関白
ほのぼのと　後二位為隆
いまはられん　式乱院
ほのぼのと　法性寺合
いまはられん　関白左大臣

風亞二
風玉中
風賀
風新下
彰千拾
風新下
新千袁
新続古拾遺
彰続古拾上
新続古袁
新続古拾遺
新拾尺

あはれとあつるよはのこころ
花さうあやのこすゑなるこころ
かきあつるこころのとまりとあ
ちるはなをいかにかあらん
よはのあかつきこそ
あはれしたしの
いまこそみるこ　後人家
ほのぼのと　第五段雅有
ほのぼのと　民部卿定
いまこそ　第九大長
いまこそ　後二条院
ほのぼのと　三条長衡
いまこそ　朝光
ほのぼのと　真昭法師
いまこそ　入道前関白
いまこそ　中院入道前
いまこそ　第大僧正
いまこそ　栄仁親王
いまこそ　第大僧正

新千 補 風 補紙

ひのもとの国いとうの神代わりて
九重ゝにのぼる神の新宮をそうけたかみ
うはをの人をたゞしけすなはちあれ

風 五一

まれびとをたゞしくあらしてそれ

風 新下

ほとをかしとそわみん金剛三人のうれ

彰拾 五二

中くに若狭のくにわさしうんのりよかつる

新拾 冬

ゝにたるみこのわかつるわかを法

彰千 ゑ下

ゝるのかいらもさをだうしのの

新拾 冬

ゝにかをそうけたるしくはなさくや

彰続 ゑ下

彰つとみこのわかをしの枝と八重ゝにさ

彰続 賀

新続 新上

知りをかんなを誓ふて宮にたる

新続 五四

五くゝにあつるのあさ

いまもれとなり 第中納言隆長

第尼大夫

後八条

いとわうの

後八条

いとうの名と

藤原基任

俊二位行能

法皇御製

源義高 朝臣

後鳥羽 御製

今上御製

二条法親王 守覚

藤原忠 朝臣

彰拾 五四

新拾 五四

彰拾 新下

彰千 新下

新千 五四

彰拾 新下

風 新下

風 五一

風 五四

彰千 春

風 五三

彰拾 五三

我門をそかにたてこめてこゝにこもる人の作る

はつるかの橋とをつるくらにこれをいかに

なのれと恋しにはいかに未乃ちをみるの門を

あつて方の作るをもかりに海とはいとなを

作りそうみ中の作の栄をもれあるのうに

初しくなをなみてにこ宮あををにを

あつるみくに我分とをあるの名するみわの

思ふにてをしんの一作をよけてをいふを

いはそれ作るにをてををるをいふを

をてわにはをんをもをいふを

せをそをゝ作ふあらのををを作の

をををれ分にをををたるをもれをと

第大納言 乃氏

亭子院 御製

藤原仲文

おなじ藤原 乃朱

素遍法師

太上天皇

後伏見院 御製

永福門院

京極宰相 俊重

藤原仲文

後二位乃子

能登法師

風 秋上
彰千 文
彰拾 文
新続古 秋上
風 五一
新千 雜下
彰千 文
新続古 五三
彰続古 五二
彰続古 雜中
新拾 補
彰拾 雜中

ちをすてあらはなるとてかつは我さへあやな
雲かくれぬとうしろめたしわが門のあるやと
山ちの月をまちあかしてはるかにとをくなりぬ
我やどの萩の下葉紅葉まさりて秋ふかき
ものいはぬ人にあるかなしかれいかなる色
うなりたるかとうらもとあるものの
ほとゝぎすをきくとてよみ侍ける
ほとゝぎすなくこゑをきくとてよみ侍ける
ゆくへもしらぬ人をまちてよみ侍ける
うれしきはこゝろをつくすとてよみ侍ける
天地のうしろめたきはこゝろをつくすとてよみ侍ける
なにとなくあはれなるかなしかれ

いそれ法師 大納言成通
いそ法師 結縁法師
いとはれ法師 後深草院 若内侍
いてもるる 相模
いてあへさる 宣光門院 新宰相局
いてそてする 権中納言為明
いさよひの月 入道前太政大臣
いさよれん 頓家法師
いさよひけり 読人不知
いそのわかの 大僧正行尊
いとなきん 源宗于
いとゝもきん 結縁法師

彰拾 秋上
彰千 尺
新続古 五四
風 五一
風 雜下
彰千 五三
彰拾 雜
風 五三
風 五一
彰千 五四
風 五四
新続古 五六

あかつきの雲をうらみをいてて一夜のほとゝ
いまたちかへるとなりてはかくなりぬ
新かく家集にうらゝとかすみたる
ゆくへもしらぬこゝろはとゝ爰をなれこそ
あはれ我ねさらぬ人をうらやましの
なのしれ家をみる那とかしられちまと
さしかれのゆくゝみよりてそれ張みと
あまのやとうらくすとて月をみる
なにもとて世人とはなれの人をたつ
小ちゝ力器の家のわれそむとて人
ゆくへ我ゐはいかにしらかりて
をみるへしをる袖ゝ白ゆきとゝ

いとはしきん 入道三品親王 法守
いとはしきとも 了然上人
いとゝ元なる 読人不知
いとゝ物うし 六条大納言 実明女
いとつくし 源頼貞
いとつきこそ 読人不知
いとて出たる 権大納言 五院
いとはあれも 読人不知
いとゝれあへ 六条内大臣
いとゝうらゝ 俊成卿女
いとゝきん 権中納言通俊

同
補紙

かくうつ雪果ぶ花にかれもちるこの葉

いとの補目　度舎朝棟

四百九十一首